

医学研究の充実・ 大学・大学病院の魅力向上 について

文部科学省高等教育局
医学教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

2. 医学部及び大学院における教育・研究の充実

2-2. 医学部及び大学院における教育・研究の充実に向けた方策

(2) 大学院博士課程の魅力向上

- 大学院博士課程と専門医制度との関係性を含めたキャリアパスの改善の観点からは、より早期に博士課程に入学するキャリアを開くため、専門研修と両立する博士課程のプログラムを充実することが考えられる。(略)
- 各大学・大学病院においては、例えば、研修2年目から博士課程へ進学し並行的に履修するなど、柔軟なカリキュラムとコース設定を行うことが望ましい。
- さらに、各学会における専門医の取得に当たっては、例えば、その取得要件において、論文投稿や学会発表など一定の研究活動を求めることを検討すべきである。
- (略) 医師それぞれが、自身のキャリアをデザインできるよう、人材の流動性を確保し、多様なキャリアパスが用意されていることが必要である。このため、国は、海外留学や海外大学と連携した大学院プログラム（ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー）等によるキャリア形成を支援するとともに、各大学における研究活性化のための取組（研究者に対する一定の研究エフォートの確保、研究活性化プロジェクトの設立、基金造成による研究費支援、研究DXの推進等）を広く周知するなど、各大学の取組を後押しする必要がある。特に働き方改革を進める中においては、診療と両立しながら十分な研究時間を確保するための配慮と工夫を求めることが必要である。
- 研究者養成に特化した仕組みである医学部臨時定員における研究医枠については、大学院修了後のポストの確保など研究者としてのキャリアパスの支援及び海外研修の機会の提供について必須とするなど、より充実した教育プログラムとするため不断の改善が必要である。また、研究医枠については、近年、増員がなされていないが、研究医養成の重要性に鑑み、国は、医学部定員全体の方向性等を踏まえつつ、研究者養成に特化した枠の設置促進等、その範囲内において研究医を増員する方策を検討する必要がある。

(3) 医学研究力の向上

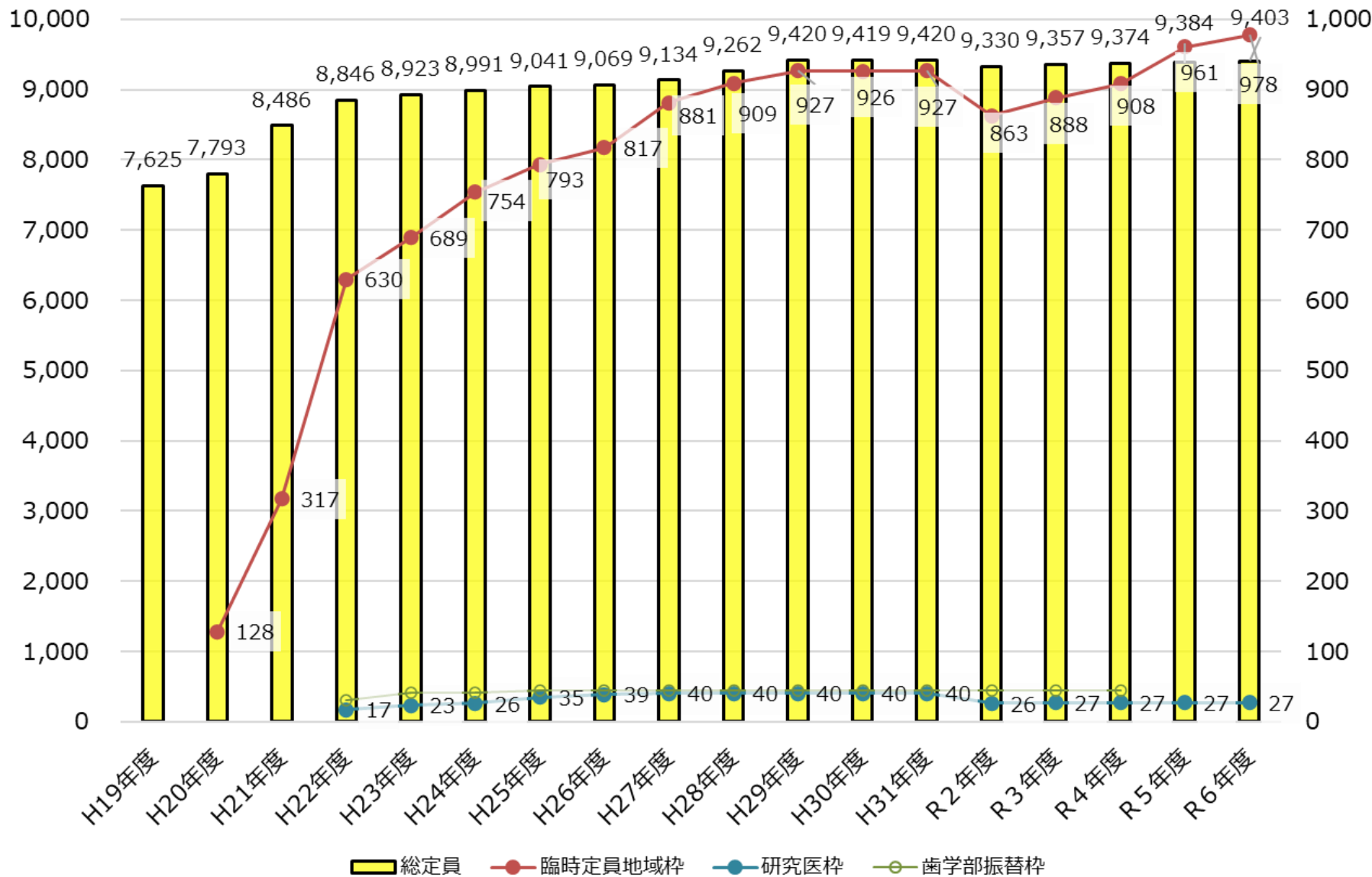
- (略) 国は、医学分野以外の研究者が、医師とともに分野横断的な研究を推進できる環境整備を進めることが重要であり、他学部出身の人材が大学病院に自由に入出りできるような仕組みやそのためのハブになる拠点を整備するなど、試行的な取組を推進する必要がある。
- また、研究者が研究に従事する時間の確保や研究を行うことの魅力を高める方策の一つとして、国は、バイアウト制度の活用や、競争的研究費の直接経費における研究代表者（PI）の人件費の支出等の各大学の取組について、一層の普及・促進に取り組むべきである。
- 大学病院で勤務する医師が、他の医療機関に派遣されている間や、例えば育児などにより非常勤として勤務する場合などにおいても、必要な研究を継続できるよう、所属機関は、研究費への応募資格の各大学における取扱いにおいて配慮するなど、研究しやすい環境を整えることが重要である。

- 研究医枠については、医学生の研究マインドの涵養に一定の効果があると考えられる。より教育効果の向上を図るために、研究医枠に係る要件の見直し、教育内容の充実に係る方策を講じてはどうか。
 - 必須要件として、卒後のポストを含めたキャリア支援や海外研修の機会の提供等を義務付けてはどうか。
- 研究医枠の本来的な目的に鑑み、基礎医学や社会医学での素養を培った優れた研究医、臨床医を幅広い大学で養成するために、設置大学の見直しを含め、研究医を増員する方策を検討してはどうか。
 - 研究医枠については近年増員がなされていないが、研究医養成の重要性に鑑み、令和6年度設置大学を含めて、各大学の研究医養成のための教育体制、研究医輩出の状況を勘案し、医学部定員全体の方向性を踏まえつつ、研究者養成に特化した枠の設置促進等、その範囲内において研究医を増員する方策を検討してはどうか。
- 医師としての臨床能力の向上、我が国の医学研究力の向上のために、大学・大学病院に医師をはじめとした医療関係職種、異分野の研究者、研究支援人材等を確保するためには どのような方策が考えられるか。
 - 高度で専門的な医療と地域医療の双方を経験できる、大学病院と協力型臨床研修病院の、いわゆるたすきがけ型の研修を推進し、臨床研修の充実を図ってはどうか。
 - 臨床研修や専門研修と両立して大学院進学が可能なプログラムの履修者増の方策を講じてはどうか。
 - 大学院進学、博士号取得に関してインセンティブを付与できないか。

医学部定員の推移 (H19~R6)

総定員数

臨時定員数



※各臨時定員枠はH22年度より開始

H20、H21年度は政府方針に基づき地域の医師確保等に資する臨時的な枠組みを地域枠として計上

研究医枠について

- ・昭和57年及び平成9年の閣議決定に基づき、医師過剰の懸念から医学部定員を抑制。
- ・平成22年度より、「経済財政改革の基本方針2009」を踏まえ、地域枠、研究医枠、歯学部振替枠により臨時的な定員増を開始。
- ・研究医枠は、他大学と連携し基礎医学及び社会医学に関する優れた研究者の養成を重点的に担おうとする場合に限り、3名以内の定員増を認めるもの。
- ・当該定員を入試制度に紐づける必要はないが、設置大学は研究医の養成拠点として、複数の大学と連携の上、研究医養成のための充実した教育体制を整備することが求められる。

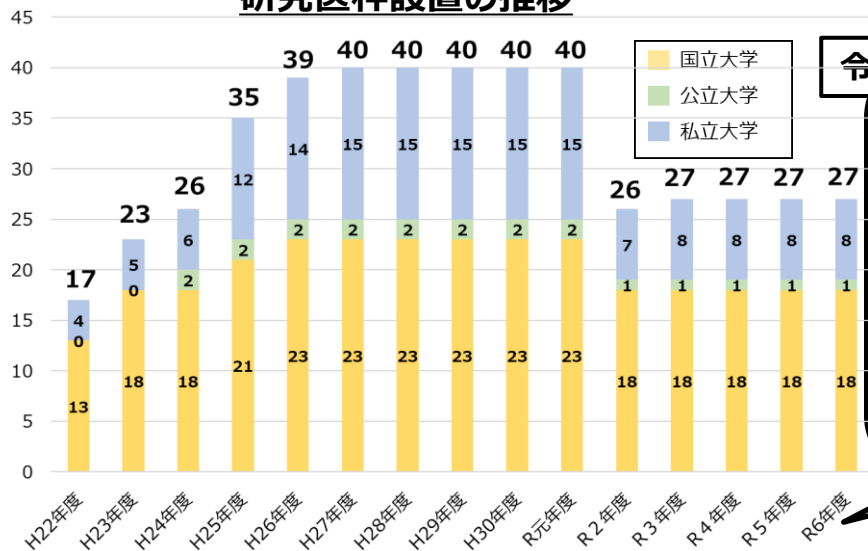
必須要件

- ・複数の大学の連携により研究医養成拠点を形成すること
- ・学部・大学院で一貫した特別な教育コースを設けること
- ・研究医確保のための奨学金を設けること

任意要件（要件として課すことが望ましいもの）

- ・専用の入試枠を設けて研究意欲の高い学生の選抜を行うこと
- ・学生の研究活動の実施のための予算措置を行うこと
- ・学会や論文発表の指導や機会の提供を行うこと
- ・臨床研修により研究活動が中断されないよう、配慮すること
- ・研究医として、常勤ポストを確保すること
- ・海外研修の機会が提供されること

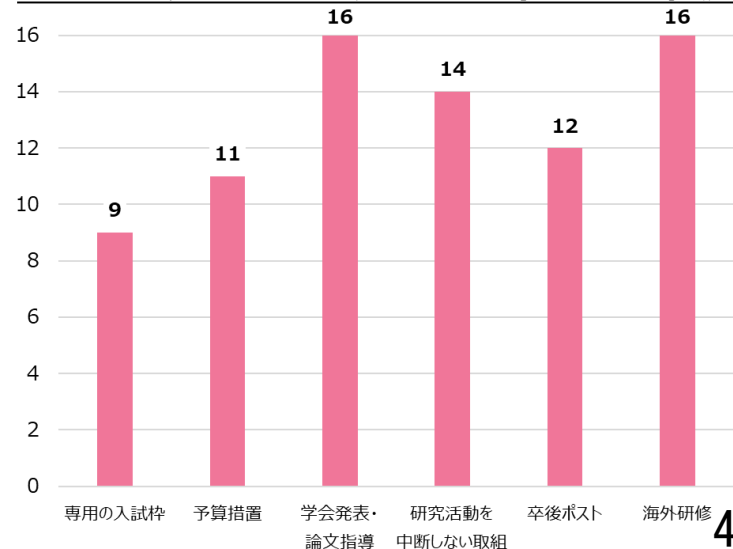
研究医枠設置の推移



令和6年度研究医枠設置大学

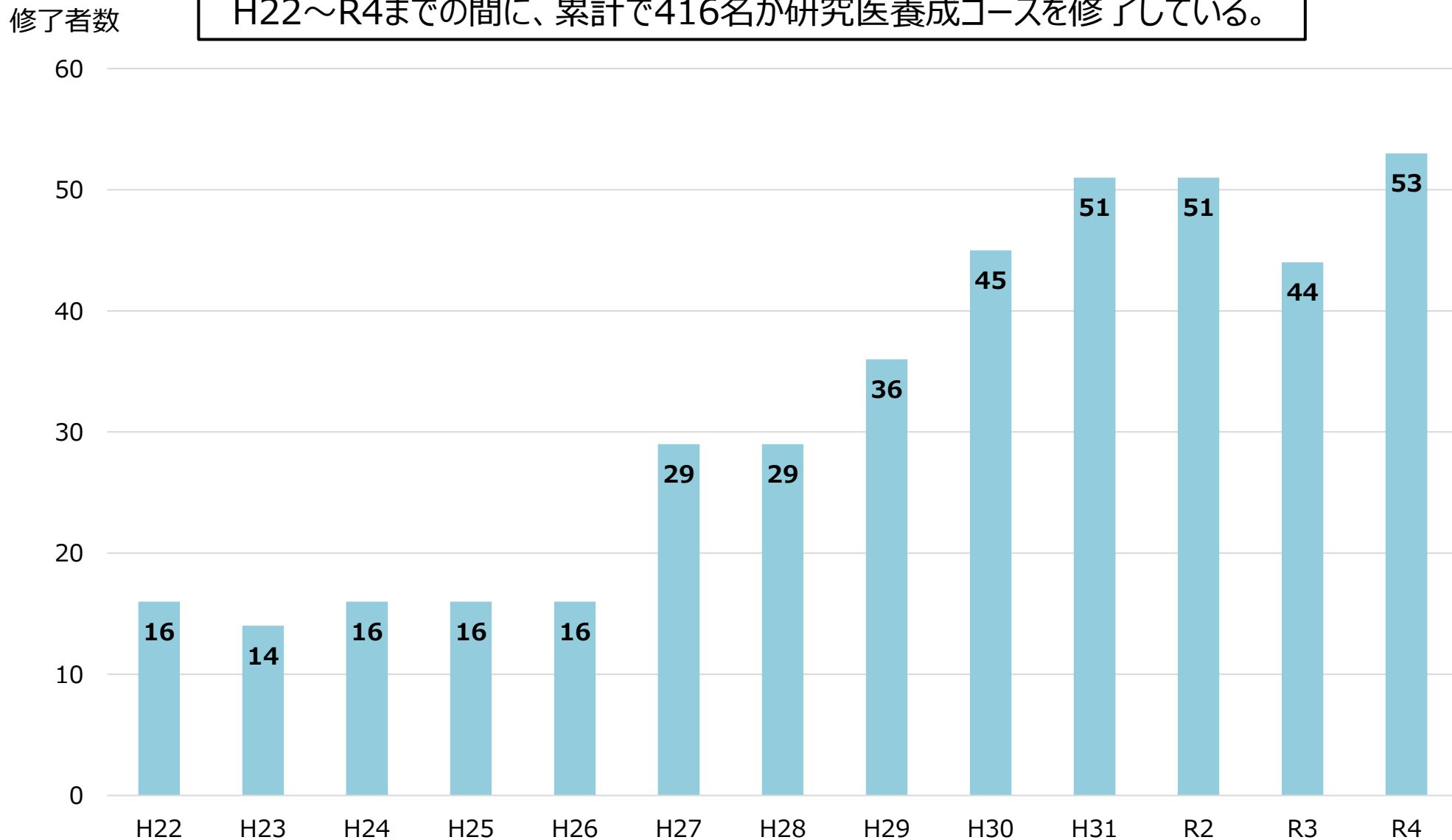
東北大
 千葉大
 東京大
 東京医歯大
 名古屋大
 京都大
 大阪大
 神戸大
 山口大
 長崎大
 奈良医大
 埼玉医大
 順天堂大
 金沢医大
 関西医大
 兵庫医大
 計 16大学

大学別研究医枠における任意要件の設定状況



研究医枠設置大学における研究医養成コース修了者の状況

H22～R4までの間に、累計で416名が研究医養成コースを修了している。



＜臨床を主とした医師養成過程の例＞

医学部（6年）

臨床研修
（2年）

専門研修
（3年）

博士課程（4年）

＜研究医養成コースの取組例①米国のMD-Ph.D.コースに類似した取組＞

医学部（6年）



博士課程（4年）

- 大学医学部と大学院が一体となった取組
- 医学部4年次に一旦休学し、大学院に入学してPh.D.を取得後、医学部5年次に復学して、MDを取得する例も

＜研究医養成コースの取組例②大学院の授業科目の先取り履修＞

医学部（6年）



博士課程（4年）

- 大学院の授業科目を学部段階で履修し、単位を修得
- 大学院入学後の履修科目数が軽減され、専門研究や論文作成の時間を一層確保

＜研究医養成コースの取組例③臨床研修と大学院の並行履修＞

医学部（6年）

臨床研修
（2年）

博士課程（4年）

- 診療に従事しようとする上で必須の臨床研修を受けながら、大学院での研究に取り組むことが可能
- 令和4年度の臨床研修より、一定の要件の下で「基礎研究医プログラム」を設置可能

※以上の取組例はあくまで一例であり、相互に組み合わせて行われる場合などもある。

医学部を置く81大学における研究医養成の取組について

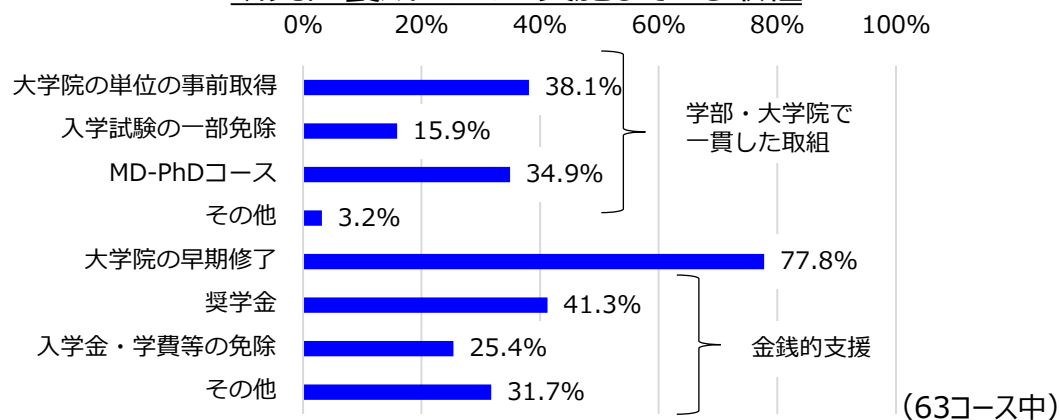
半数以上の大学で研究医養成コースを置いているが、コース在籍者の考え方は大学によって様々。

研究医養成コース設置大学数

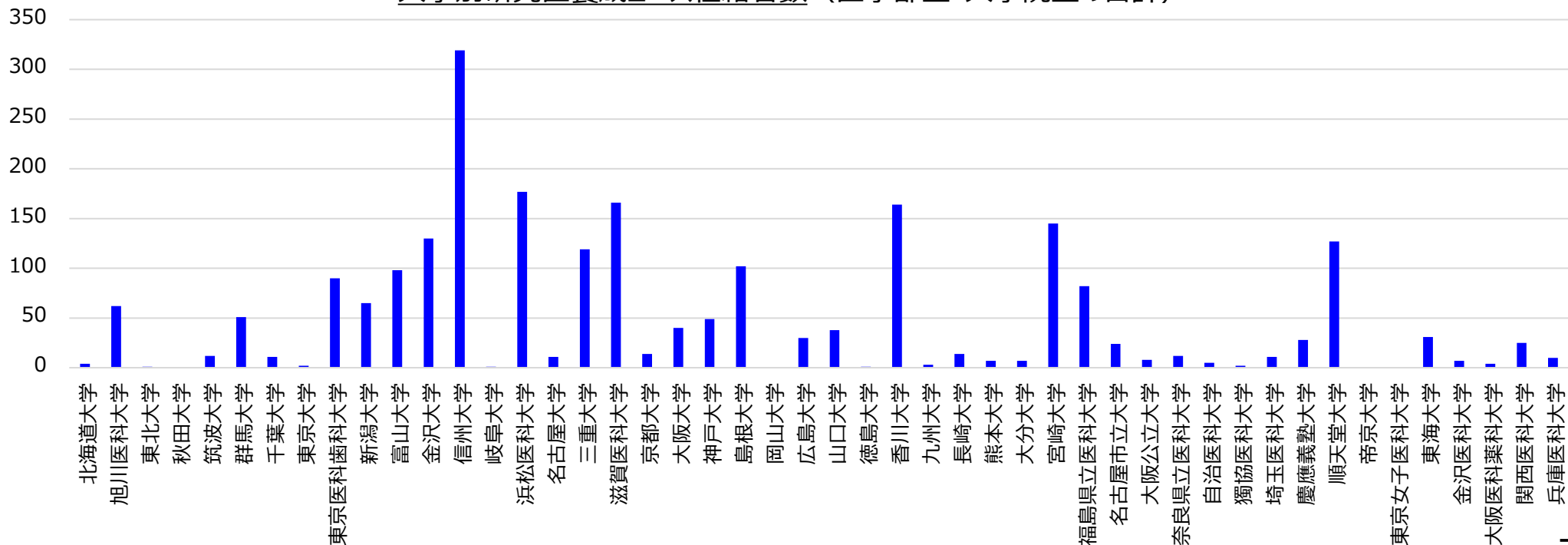
	大学数
1 コースを実施	38
2 コースを実施	8
4 コースを実施	1
5 コースを実施	1
コース実施なし	33

全63コース

研究医養成のために実施している取組



大学別研究医養成コース在籍者数（医学部生・大学院生の合計）

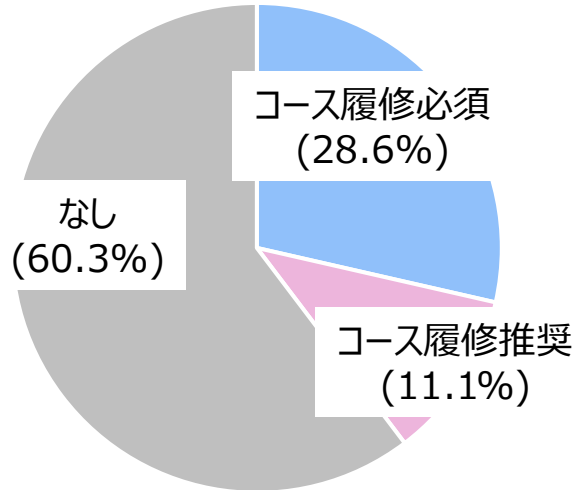


(出典) 令和5年度先導的・大学改革推進委託事業「大学医学部における研究医養成の効果検証のための調査研究」の速報値を基に、文部科学省医学教育課で作成。

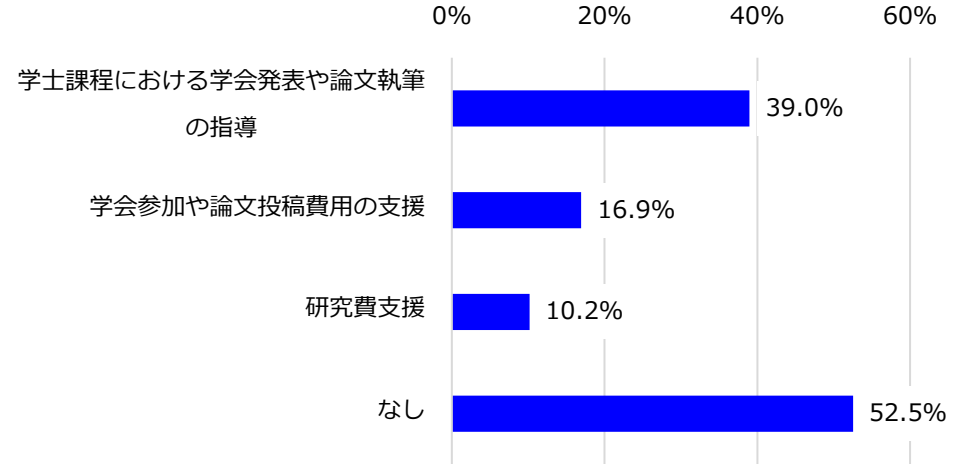
研究医養成のコースの取組内容 (N=63コース)

研究マインドの涵養のため、各大学の研究医養成コースでは様々な取組が実施されている。

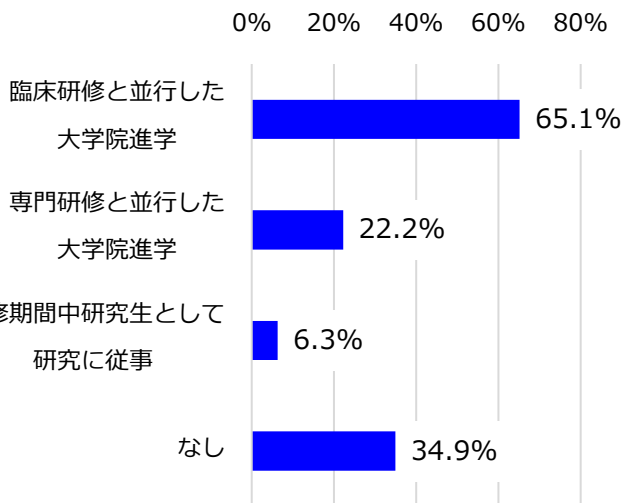
研究医養成コースに関する入試枠の設定



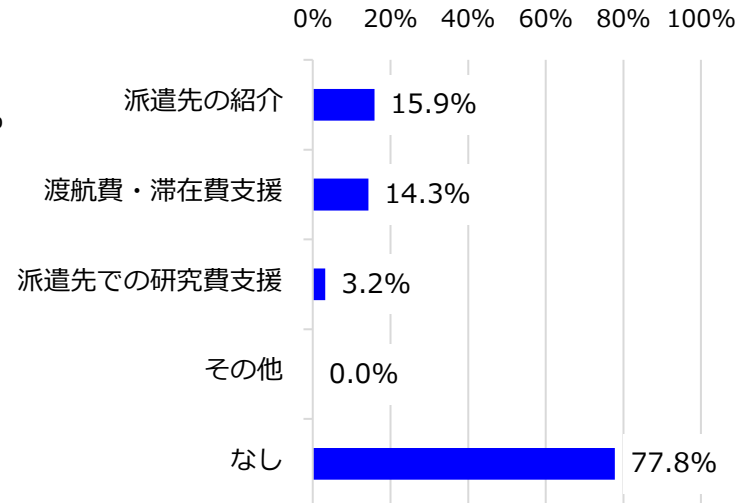
コース在籍者への研究活動の支援



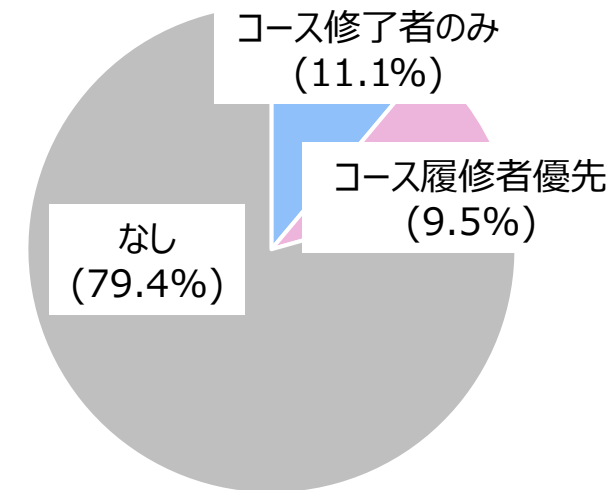
コース在籍者が研究活動を中断しないための取組



コース在籍者への海外留学の支援



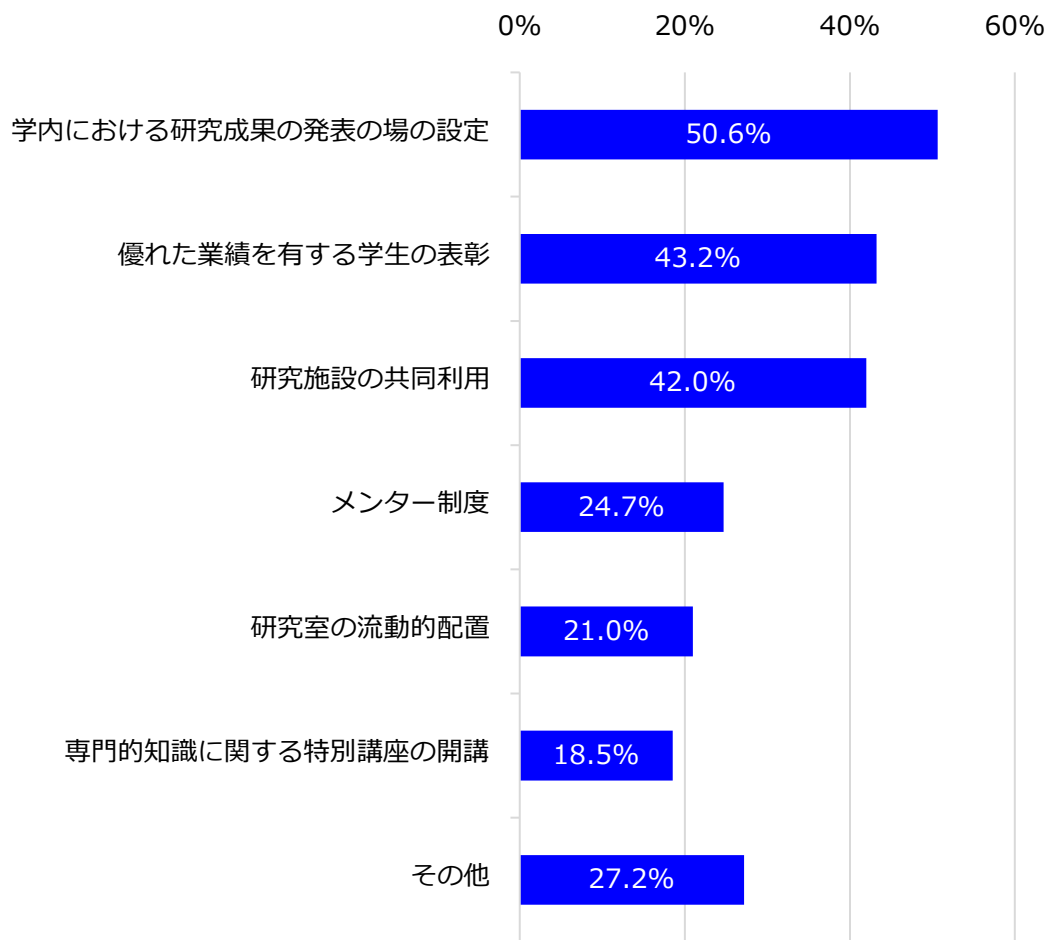
コースに関する常勤ポストの設定



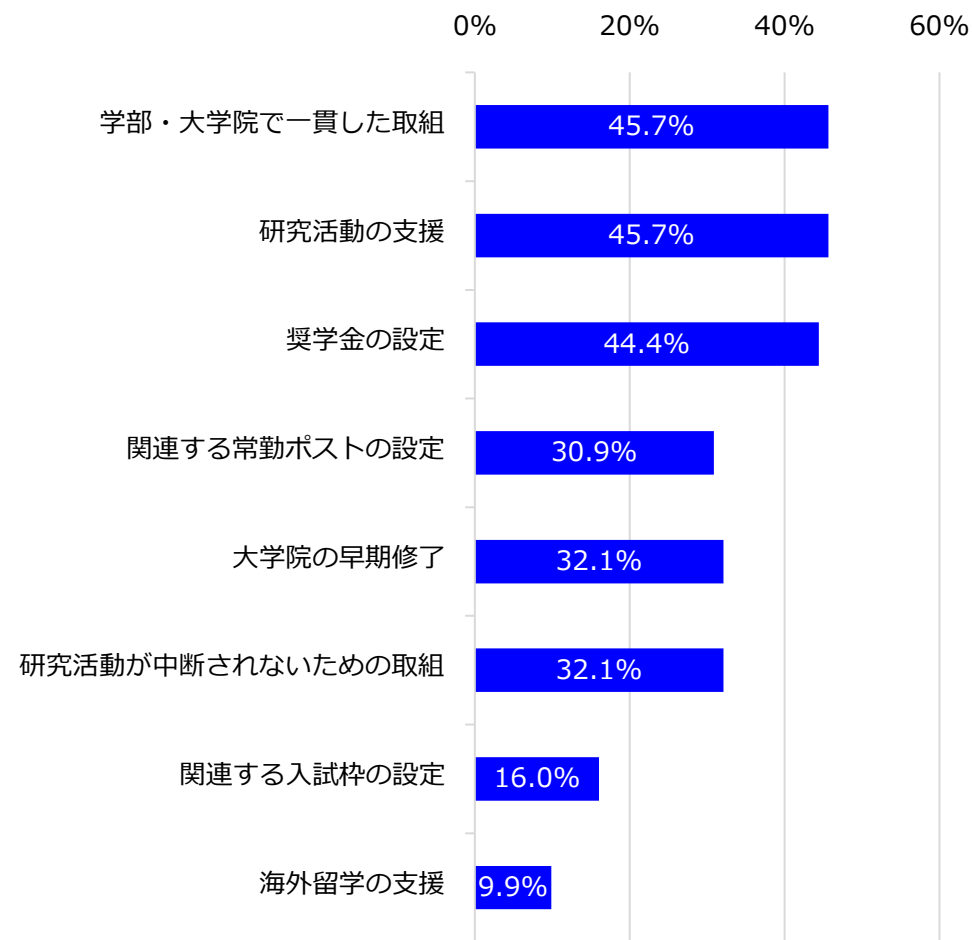
(出典) 令和5年度先導的大学改革推進委託事業「大学医学部における研究医養成の効果検証のための調査研究」の速報値を基に、文部科学省医学教育課で作成。

医学部を置く大学における研究医養成に関するアンケート

研究医養成のための教育上の工夫



研究医養成の推進のために効果的と考えられる取組



その他、研究医養成推進のために効果的と考えられる取組

- ・臨床研修と大学院進学の両立
- ・他大学との定期的な交流会の開催
- ・医学研究に関するトレーニングプログラムの提供
- ・研究に必要な施設・設備の整備
- ・過密カリキュラムの回避
- ・研修期間中の研究時間確保
- ・大学院進学、博士号取得のインセンティブ、キャリアパスへの活用 等

東日本・西日本それぞれで開催された学生リトリートでは、学年・所属分野を問わず、医学研究に関する活発な議論が繰り広げられている。

東日本研究医養成コンソーシアム

西日本医学生学術フォーラム

東日本研究医養成コンソーシアム
第13回 夏のリトリート

会期 令和5年 8/19(土)~20(日)

会場 星陵会館 (東北大学星陵キャンパス) 仙台ヒルズホテル

開催形式 ハイブリッド開催
※発表者は原則現地参加

代表 教員 石井 直人 教授
東北大学大学院医学系研究科長・医学部長
学生 廣田 嵩人
東北大学医学部医学科6年

特別講演 山本 雅之 教授
東北大学大学院工学部化学系 分子系化学分野
片桐 秀樹 教授
東北大学大学院医学系研究科 腫瘍内科学分野

【現地参加登録期間】
2023年4月17日(月)▷ 5月26日(金)

【演題登録期間・オンライン参加登録期間】
2023年4月17日(月)▷ 6月30日(金)

主催・運営事務局 東日本研究医養成コンソーシアム
第13回夏のリトリート事務局(東北大学医学部)
連絡先: tohoku_retrast2023@gmail.com

東北大学広報活動キャラクター

- ### 2023参加大学
- 北海道大
 - 金沢大
 - 東北大
 - 山梨大
 - 群馬大
 - 横浜市大
 - 千葉大
 - 慶応義塾大
 - 東京大
 - 順天堂大
 - 新潟大



西日本医学生学術フォーラム2023

会期 2023年12月2日(土)

時間 12:00~18:30(予定)

会場 熊本県医師会館

開催方法 ハイブリッド

西日本各地から
15大学参加

プログラム
開会式
口頭発表
ポスター発表
若手研究医特別対談
閉会式
懇談会(希望者のみ)

【問い合わせ先】
熊本大学大学院医学教育研究部第三プログラム事務局
住所:〒860-8556
熊本市中央区本庄1丁目1番1号
TEL: 096-373-7387
E-mail: iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp

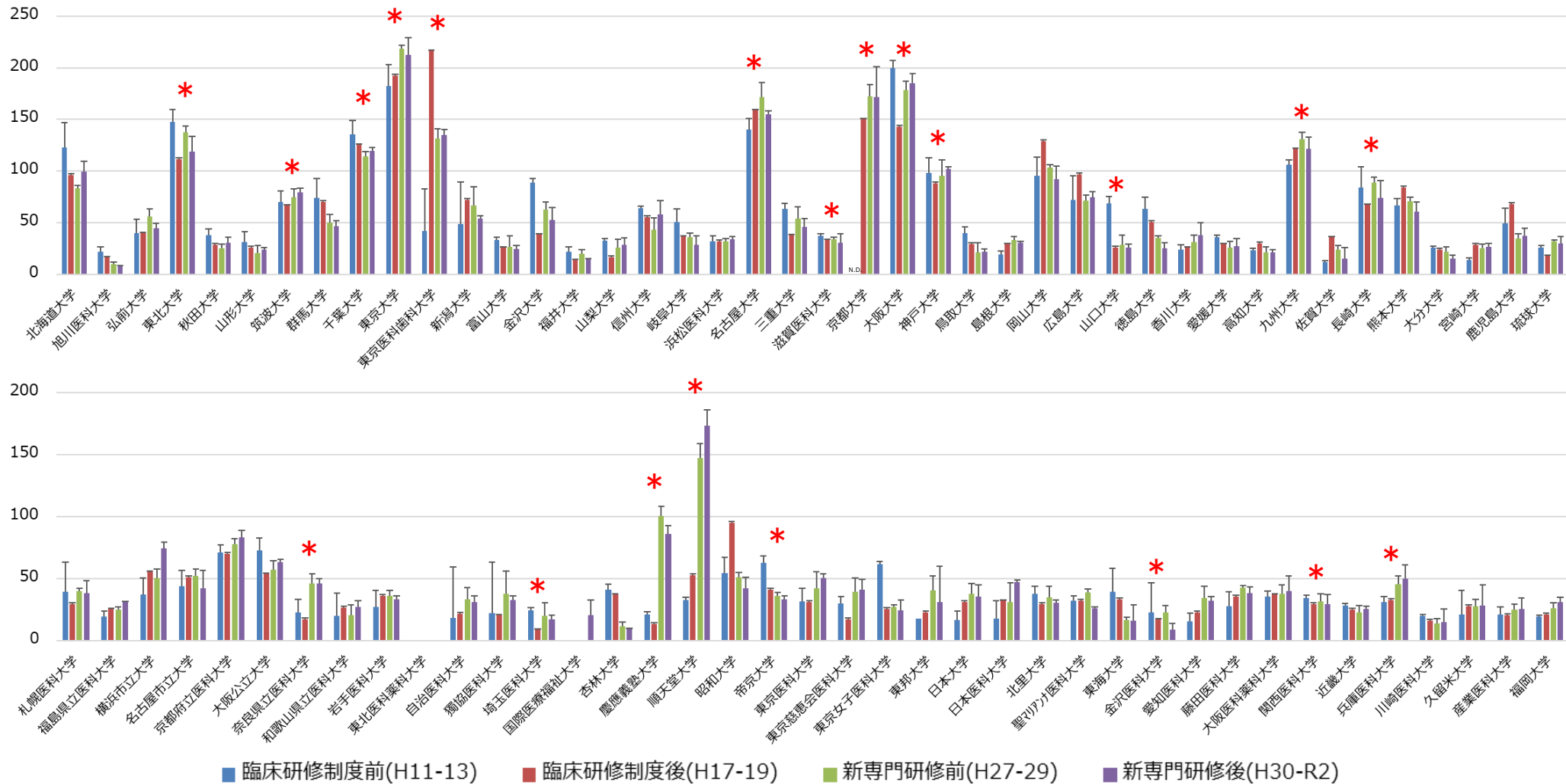
【写真提供: 熊本総合事務所】

- ### 2023参加大学
- 福井大
 - 佐賀大
 - 久留米大
 - 三重大
 - 長崎大
 - 産業医大
 - 大阪大
 - 熊本大
 - 大分大
 - 岡山大
 - 大分大
 - 島根大
 - 大阪公大
 - 香川大
 - 奈良医大
 - 愛媛大
 - 関西医大



大学院生数の推移(H11~R5)

研究医枠設置大学では、研修制度が開始される中、増員以後大学院生数が増加傾向にある。



* 研究医枠設置大学（現在増員の無い大学を含む）

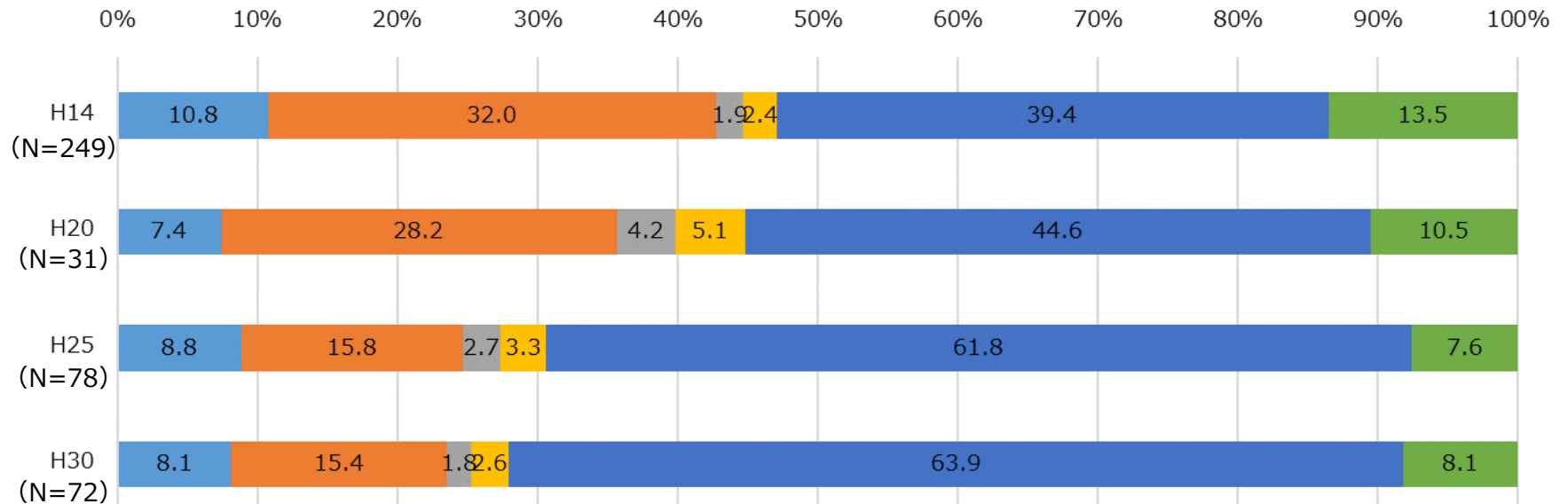
※ 大学院生数は3年間の平均

H11-13は学校基本調査、その他は医学教育課調べ 11

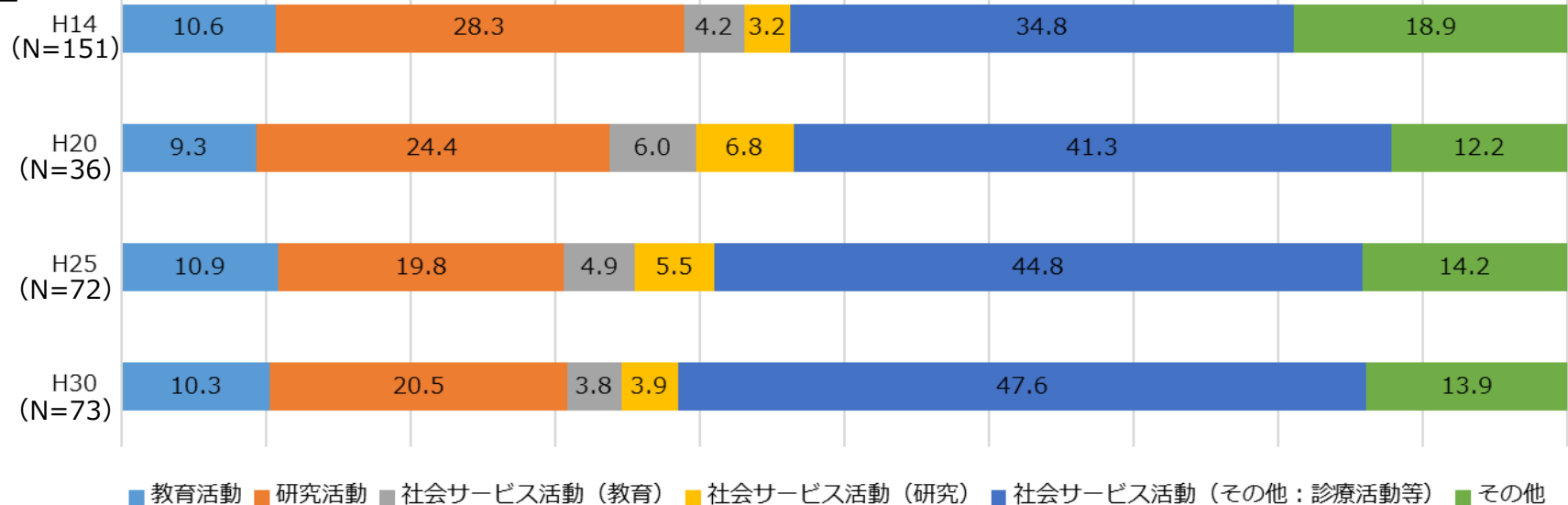
臨床医学系の教員の研究時間の推移

教授・准教授とも診療活動の時間増に伴い、研究活動の割合が減少している。

教授



准教授

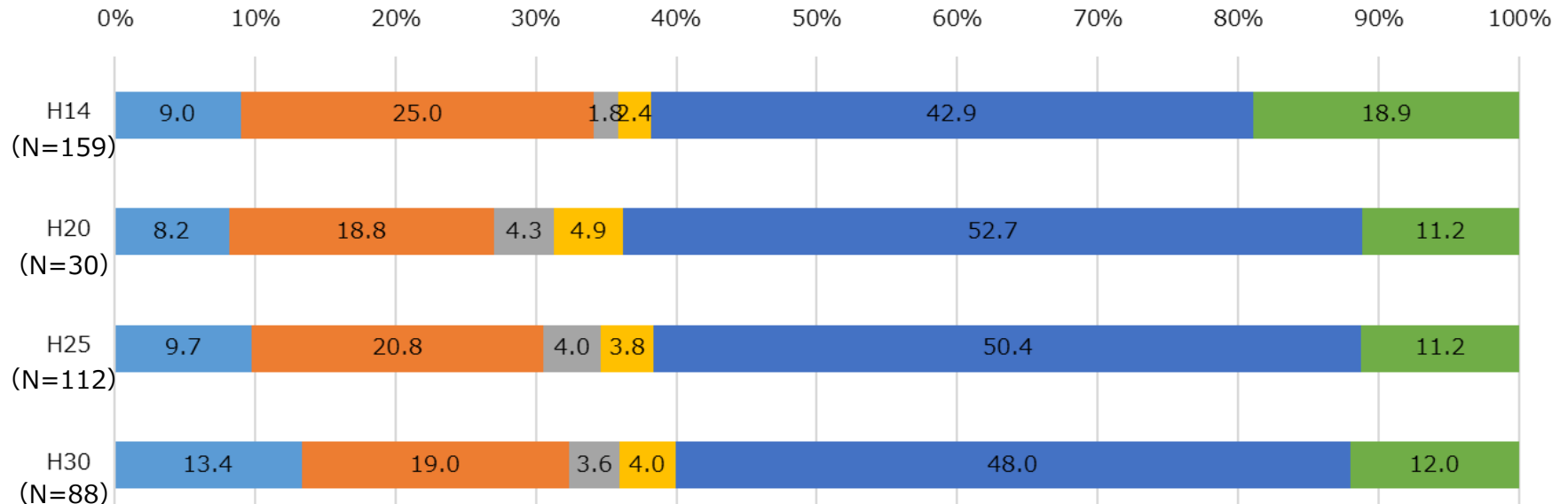


(出典) 文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に、文部科学省医学教育課が作成。

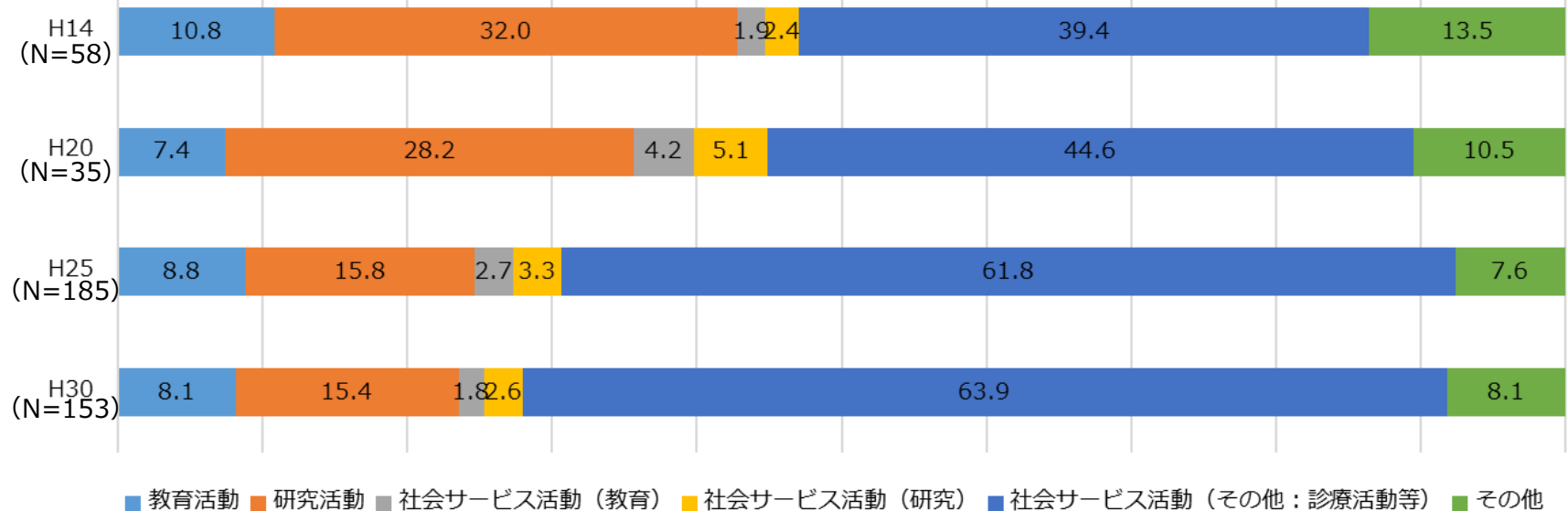
臨床医学系の教員の研究時間の推移

講師の各活動の割合は横ばいであるのに対し、助教の研究活動の時間は大幅に減少している。

講師



助教

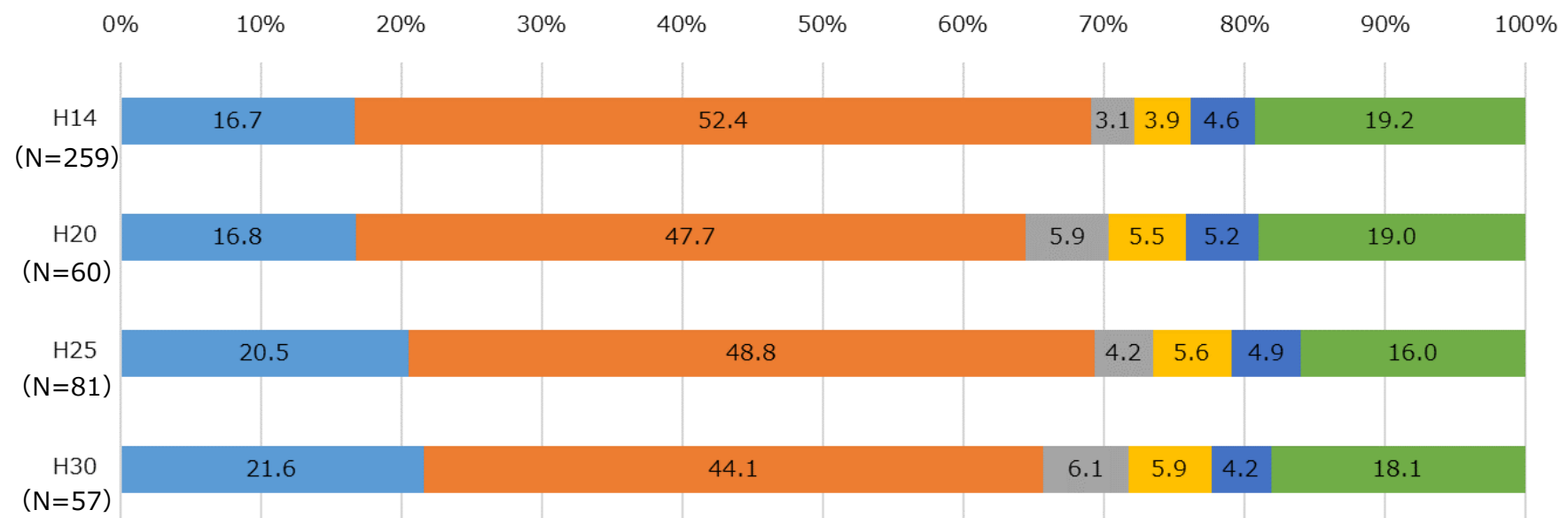


(出典) 文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に、文部科学省医学教育課が作成。

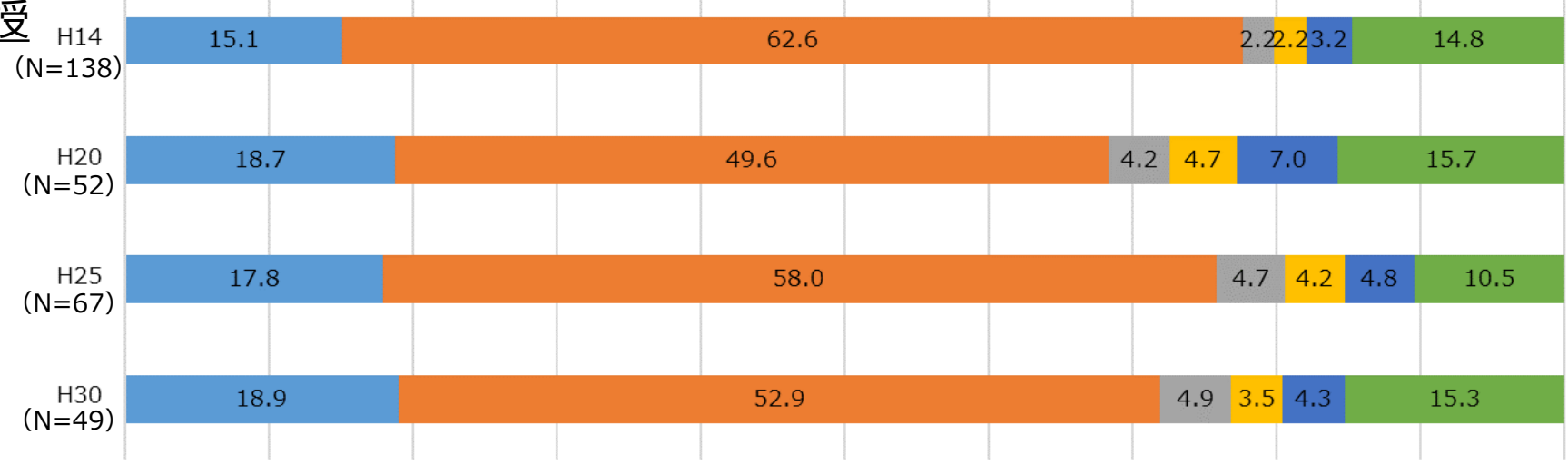
基礎医学系教員の研究時間の推移

基礎医学系は臨床医学系と比較して、研究活動の時間が確保されている傾向にある。

教授



准教授



■ 教育活動 ■ 研究活動 ■ 社会サービス活動（教育） ■ 社会サービス活動（研究） ■ 社会サービス活動（その他：診療活動等） ■ その他

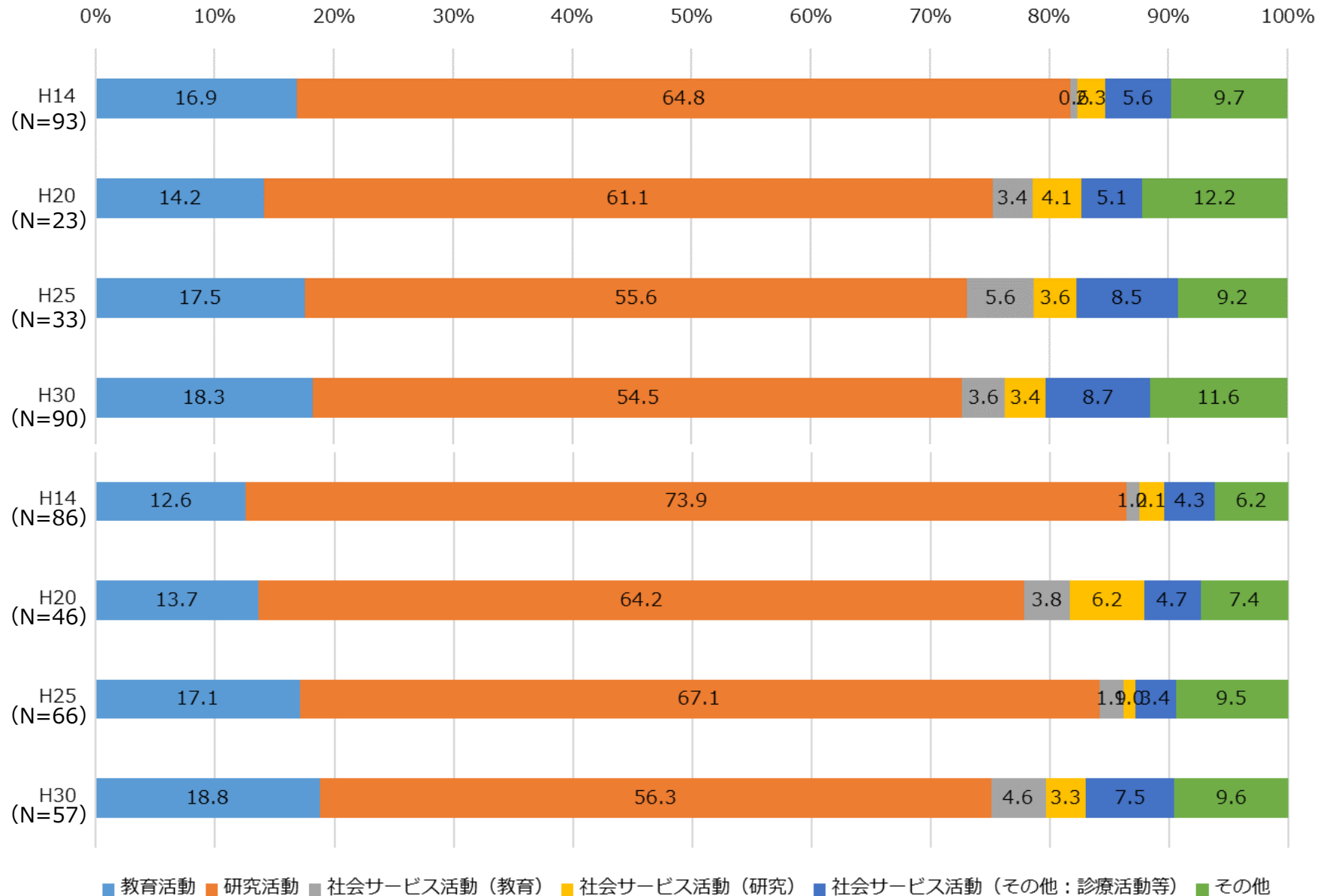
(出典) 文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に、文部科学省医学教育課が作成。

基礎医学系教員の研究時間の推移

基礎医学系は研究活動が半分以上を占めるが、研究活動の時間は減少傾向にある。

講師

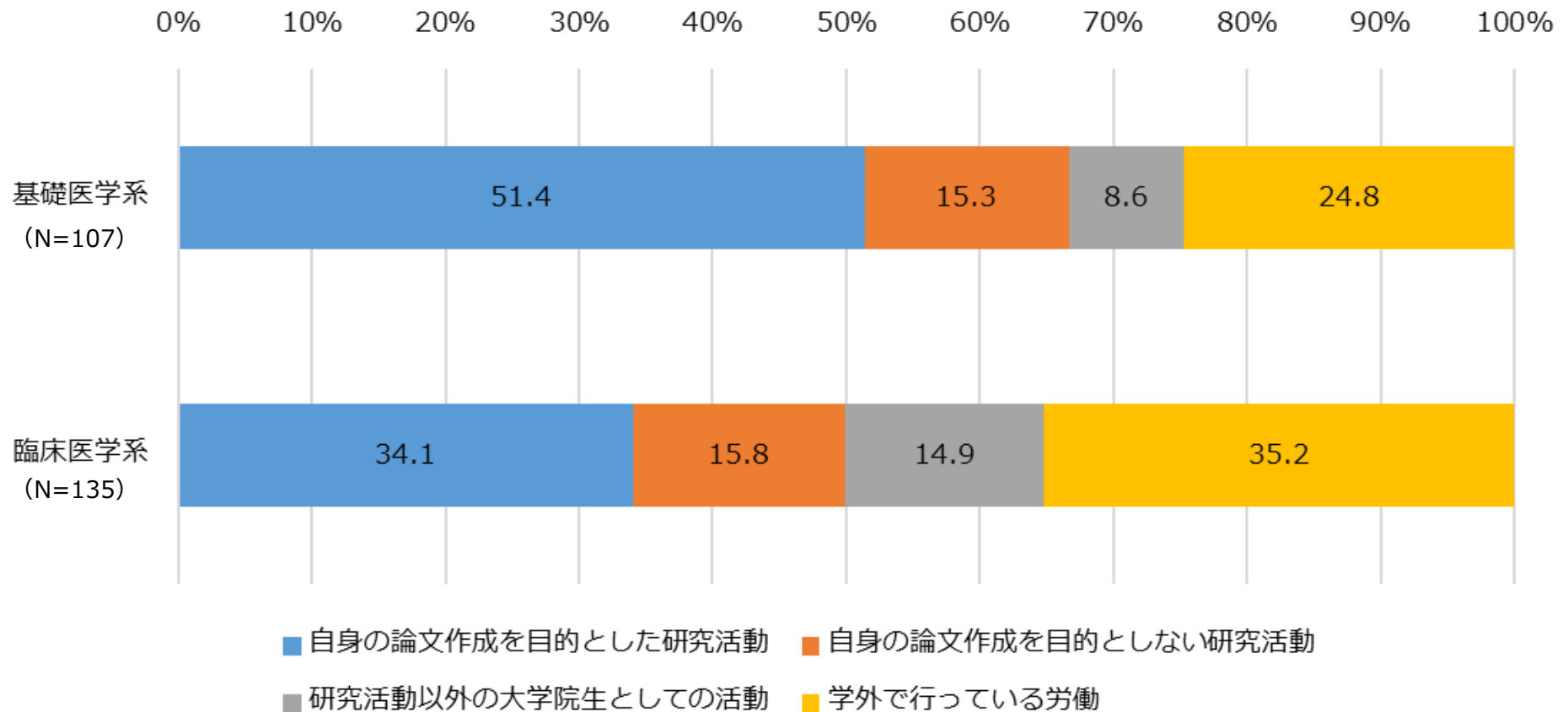
助教



(出典) 文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に、文部科学省医学教育課が作成。

基礎医学・臨床医学系大学院生の研究時間（H30）

大学院生は比較的研究活動の時間が確保できているが、
基礎医学・臨床医学系共に学外の労働が1 / 4 ~ 1 / 3を占める。

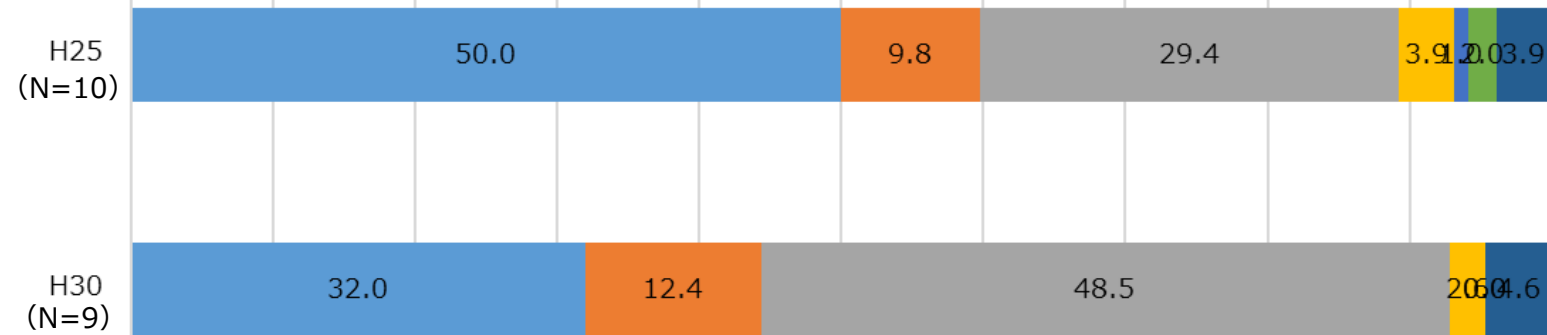


基礎医学・臨床医学系医局員の研究時間

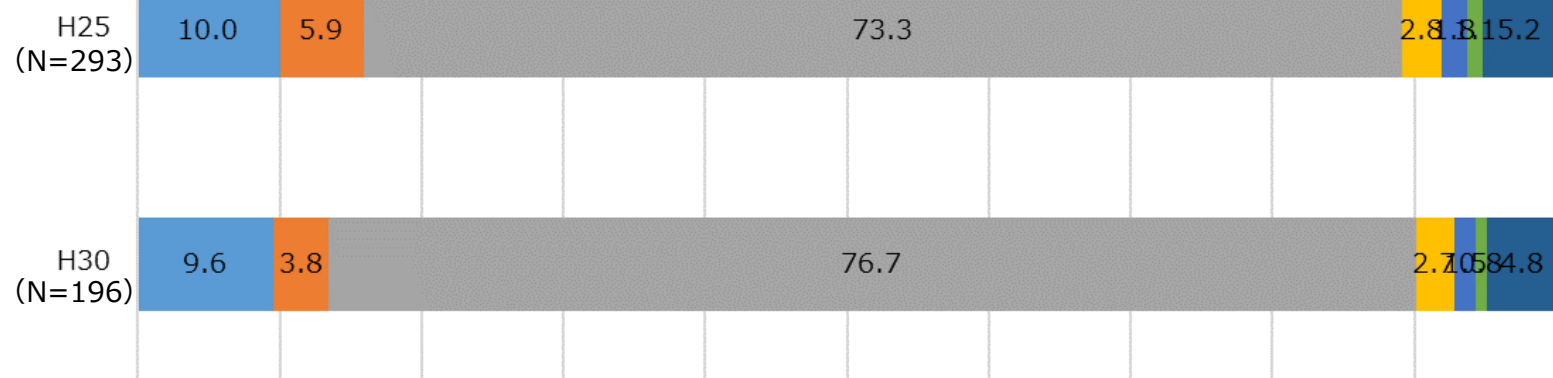
- ・基礎医学系の医局員は診療関係の社会サービス活動が著しく増大し、研究活動の時間が減少している。
- ・臨床医学系の医局員は診療関係の社会サービス活動が70%以上を占める。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

基礎医学系



臨床医学系



- 研究活動（論文作成目的）
 - 研究活動（論文作成以外）
 - 社会サービス活動（医療関連）
 - 社会サービス活動（教育関連）
 - 社会サービス活動（研究関連）
 - 社会サービス活動（その他）
 - その他の職務活動
- (出典) 文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に、文部科学省医学教育課が作成。

臨床医学系の研究員は診療関係の社会サービス活動が40%以上を占める。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

基礎医学系

H25
(N=88)



H30
(N=159)



臨床医学系

H25
(N=28)



H30
(N=68)

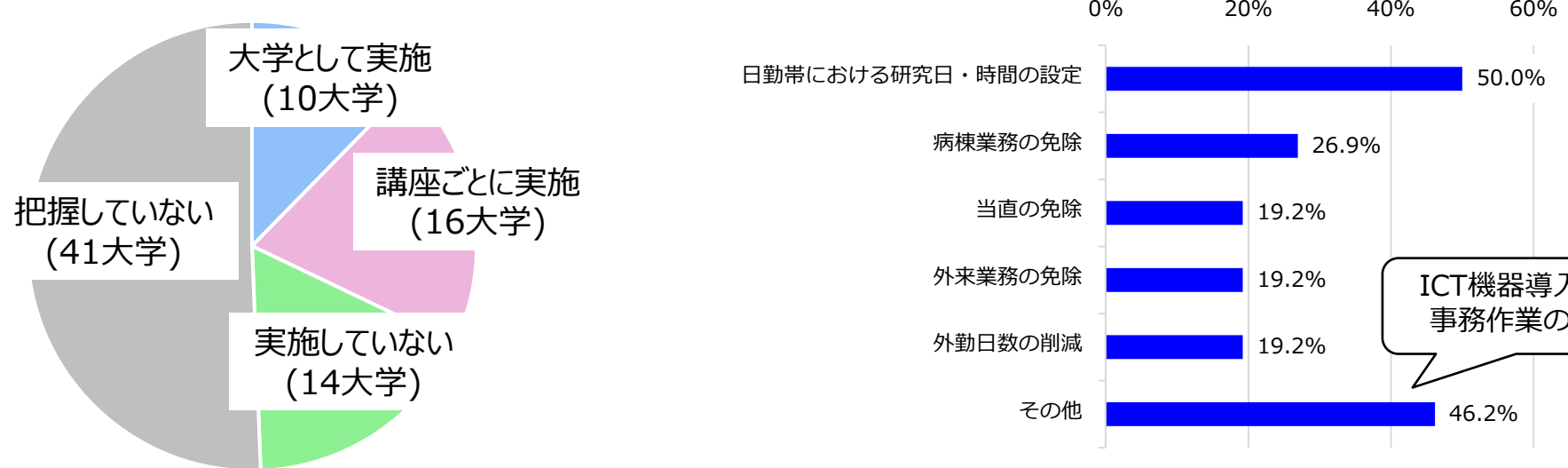


- 研究活動（論文作成目的） ■ 研究活動（論文作成以外） ■ 社会サービス活動（医療関連）
- 社会サービス活動（教育関連） ■ 社会サービス活動（研究関連） ■ 社会サービス活動（その他）
- その他の職務活動

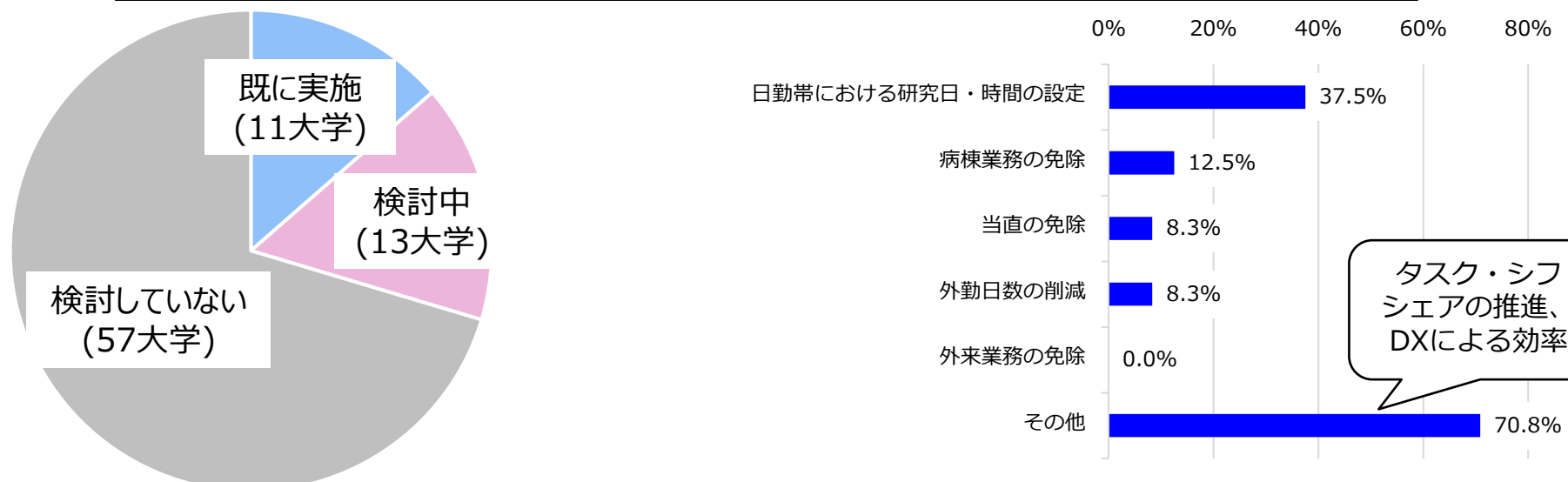
大学医学部・大学病院における研究時間確保について

全体の1 / 3程度の大学で既に研究時間確保の取組が進められているが、令和6年4月に向けて研究時間確保の取組を検討している大学も同程度である。

現在の研究時間確保に関する取組の実施状況と取組内容



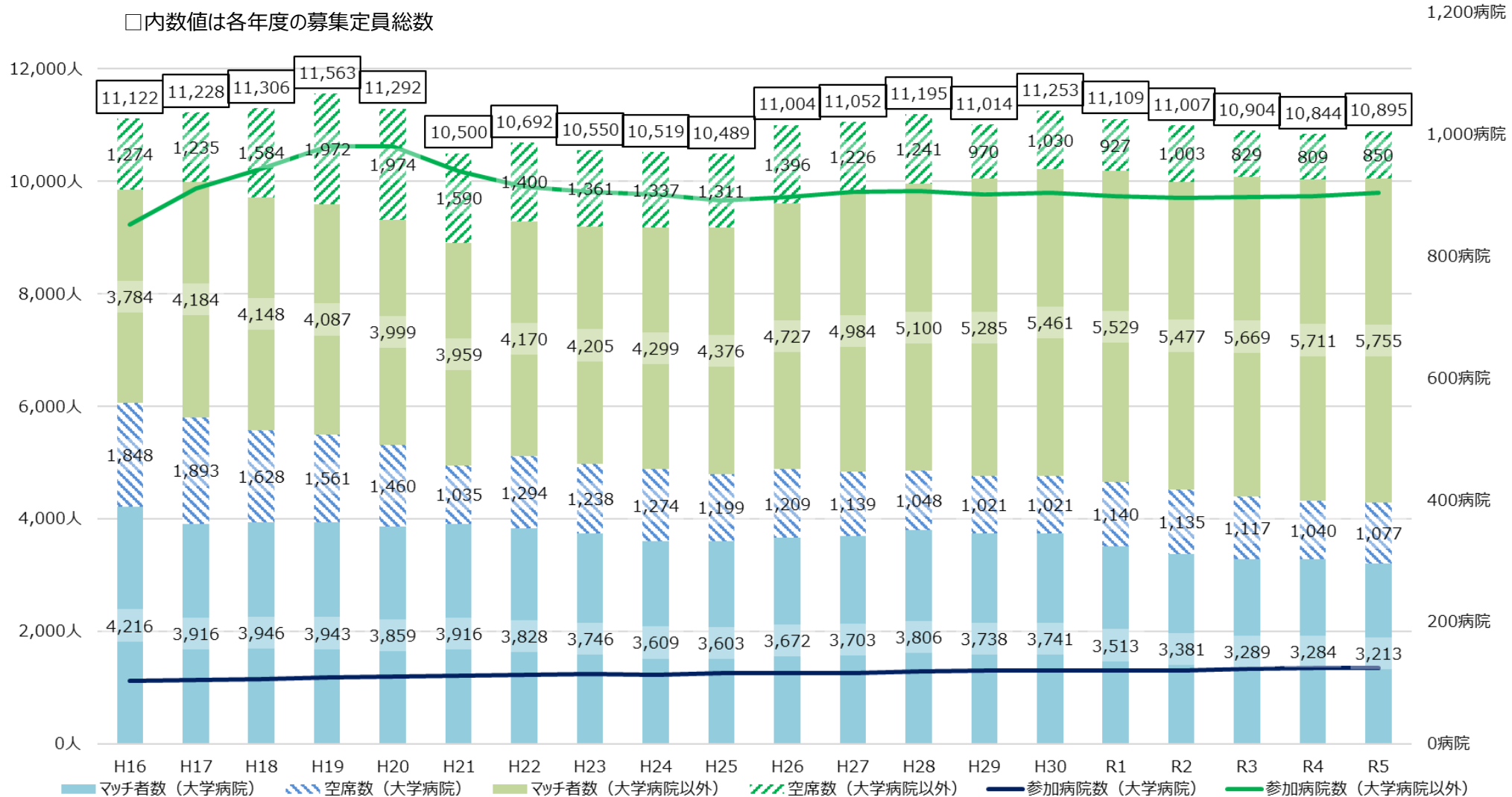
令和6年4月からの医師の働き方改革に向けた研究時間確保に関する取組の検討状況と検討内容



(出典) 令和5年度先導的・大学改革推進委託事業「大学医学部における研究医養成の効果検証のための調査研究」の速報値を基に、文部科学省医学教育課で作成。

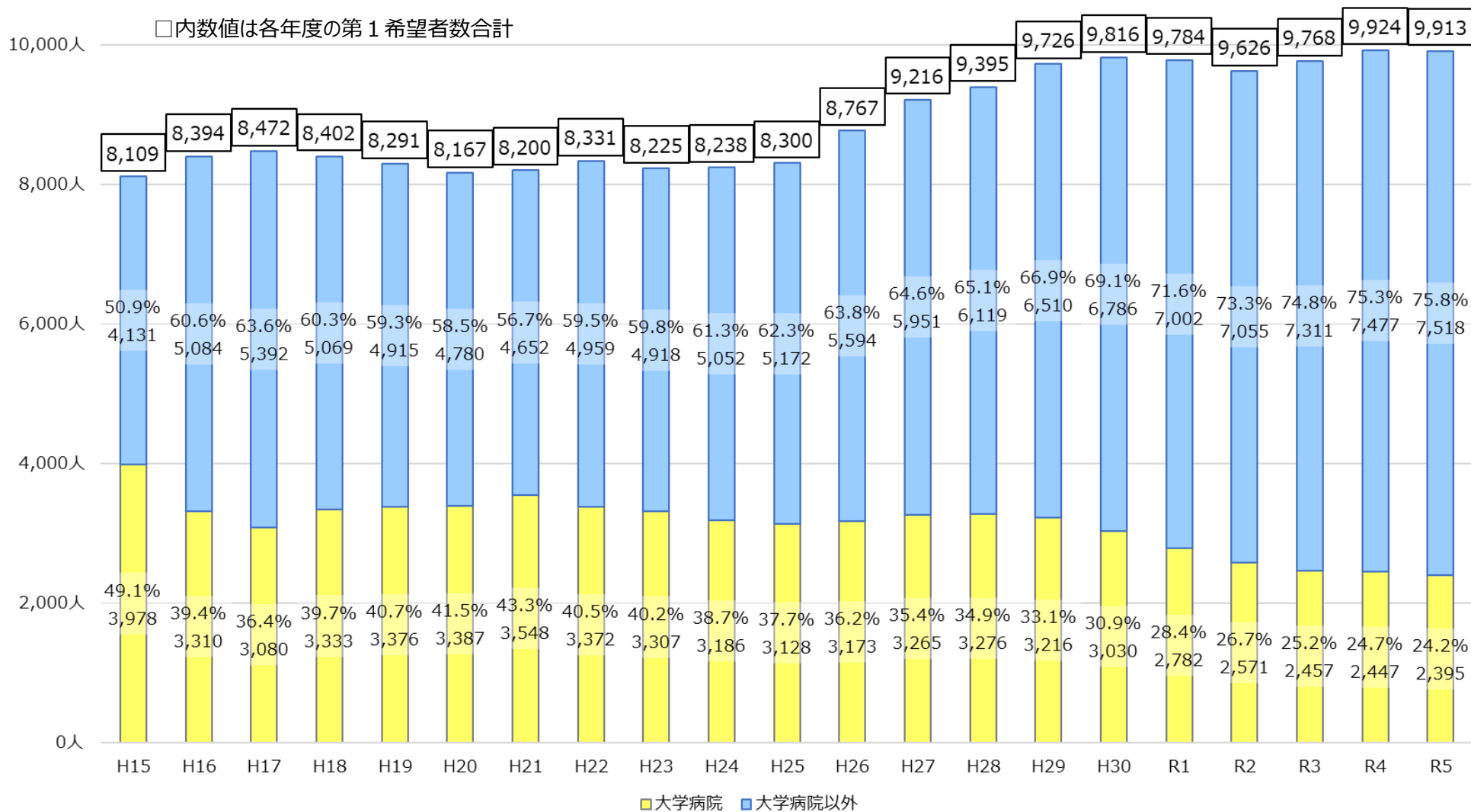
機関別医師臨床研修マッチング数

臨床研修病院の募集定員及び採用者数は増加している一方、大学病院においては共に減少傾向が見られる。



医師臨床研修マッチングにおいて大学病院の第1希望者数の推移

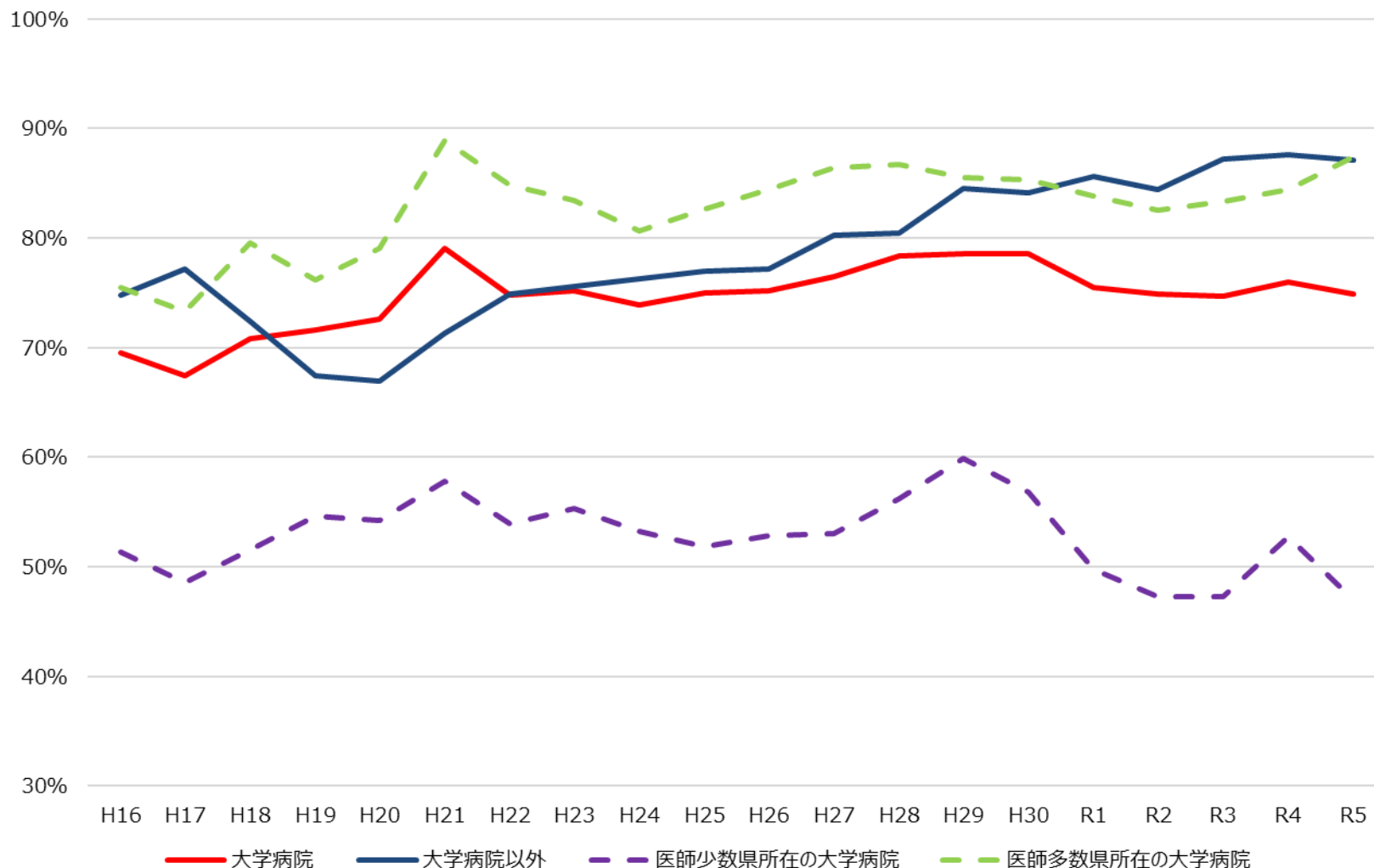
新医師臨床研修制度が実施された当初は、大学病院での臨床研修を第1希望とする研修希望者が全体の半数程度いたが、年々減少しており、令和5年度のマッチング結果では全体の25%を下回っている。



(出典) 医師臨床研修マッチング協議会ホームページ マッチ結果概要を基に、文部科学省医学教育課が作成。

医師臨床研修マッチングのマッチ率の推移

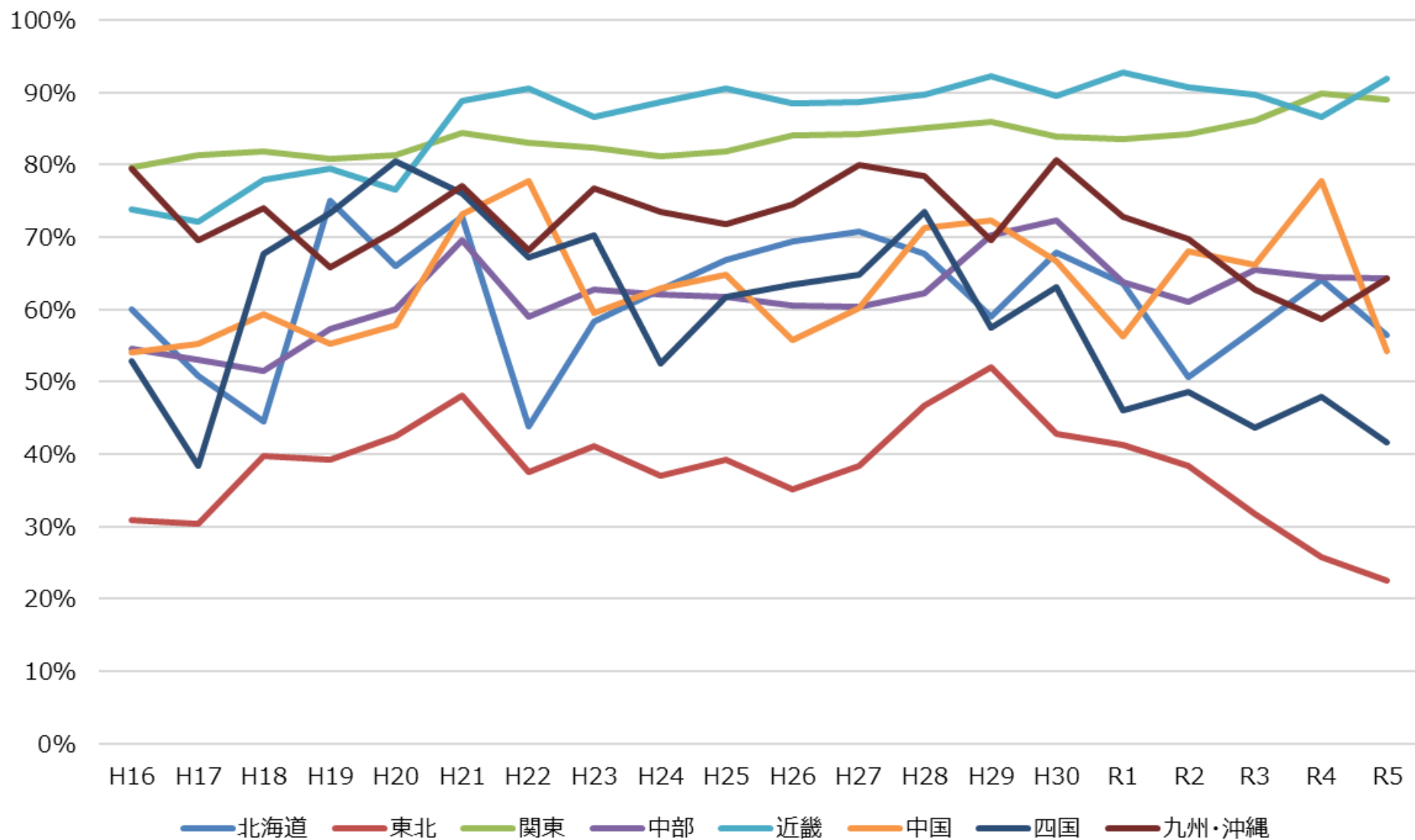
- 平成21年度以降、大学病院は大学病院以外の臨床研修病院と比較するとマッチ率が低い傾向にある。
- 医師少数県に位置する大学病院は、医師多数県に位置する大学病院と比較するとマッチ率が低い傾向にある。



※医師多数県、少数県については、厚生労働省HP 医師確保対策 医師偏在指標（令和6年1月10日更新）に基づき、上位1/3の県を多数県、下位1/3の県を少数県とした。

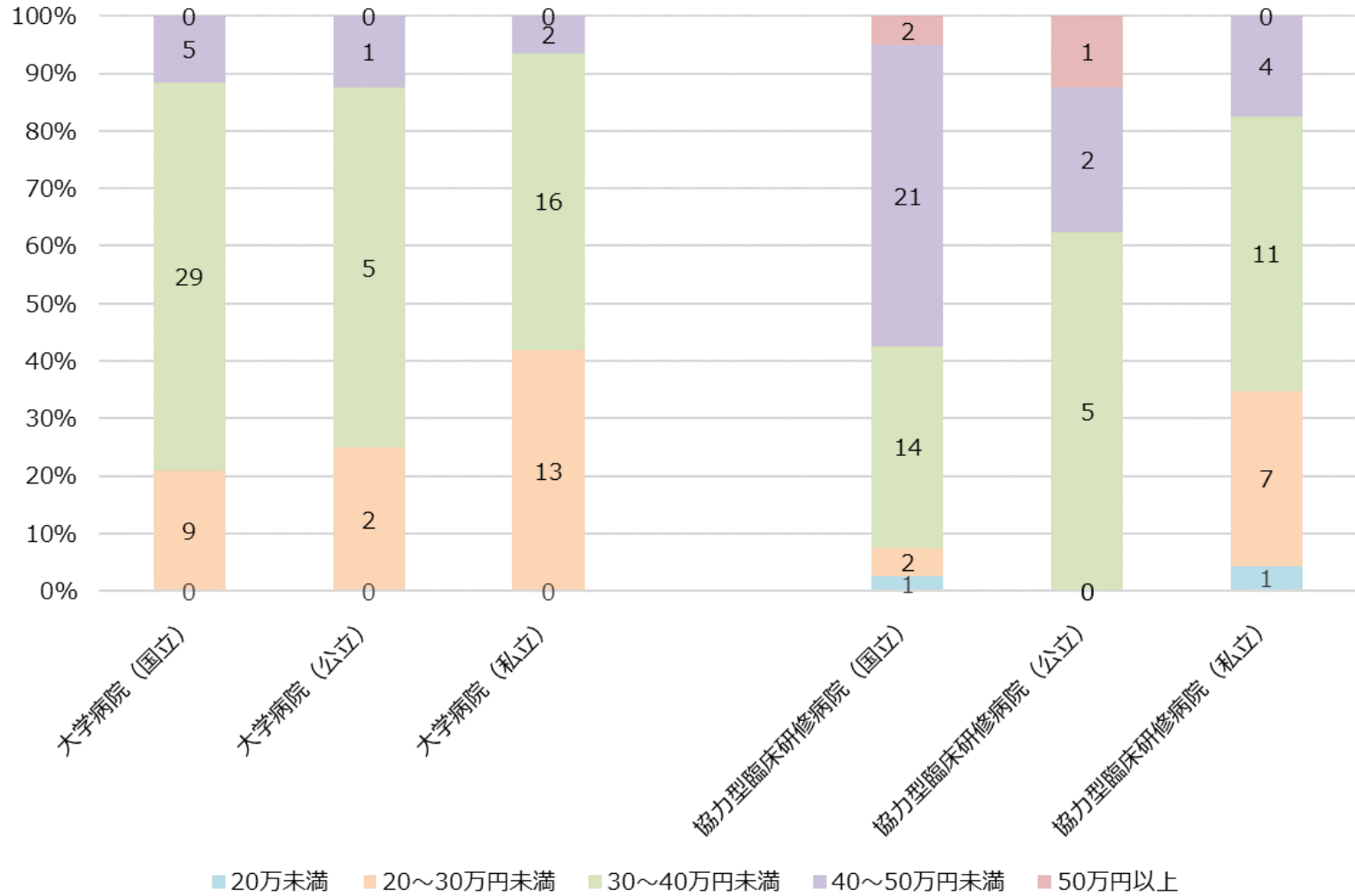
（出典）医師臨床研修マッチング協議会ホームページ マッチ結果概要を基に、文部科学省医学教育課が作成。

【参考】医師臨床研修マッチングマッチ率推移（地方区分）



臨床研修医の給与について

大学病院の臨床研修医の給与は、協力型臨床研修病院よりも低い傾向にある。



※給与には、基本給の他その他の手当等含む。

※令和4年度賃金構造基本統計調査では、大学卒平均給与は228,500円、大学院卒平均給与267,900円となる。

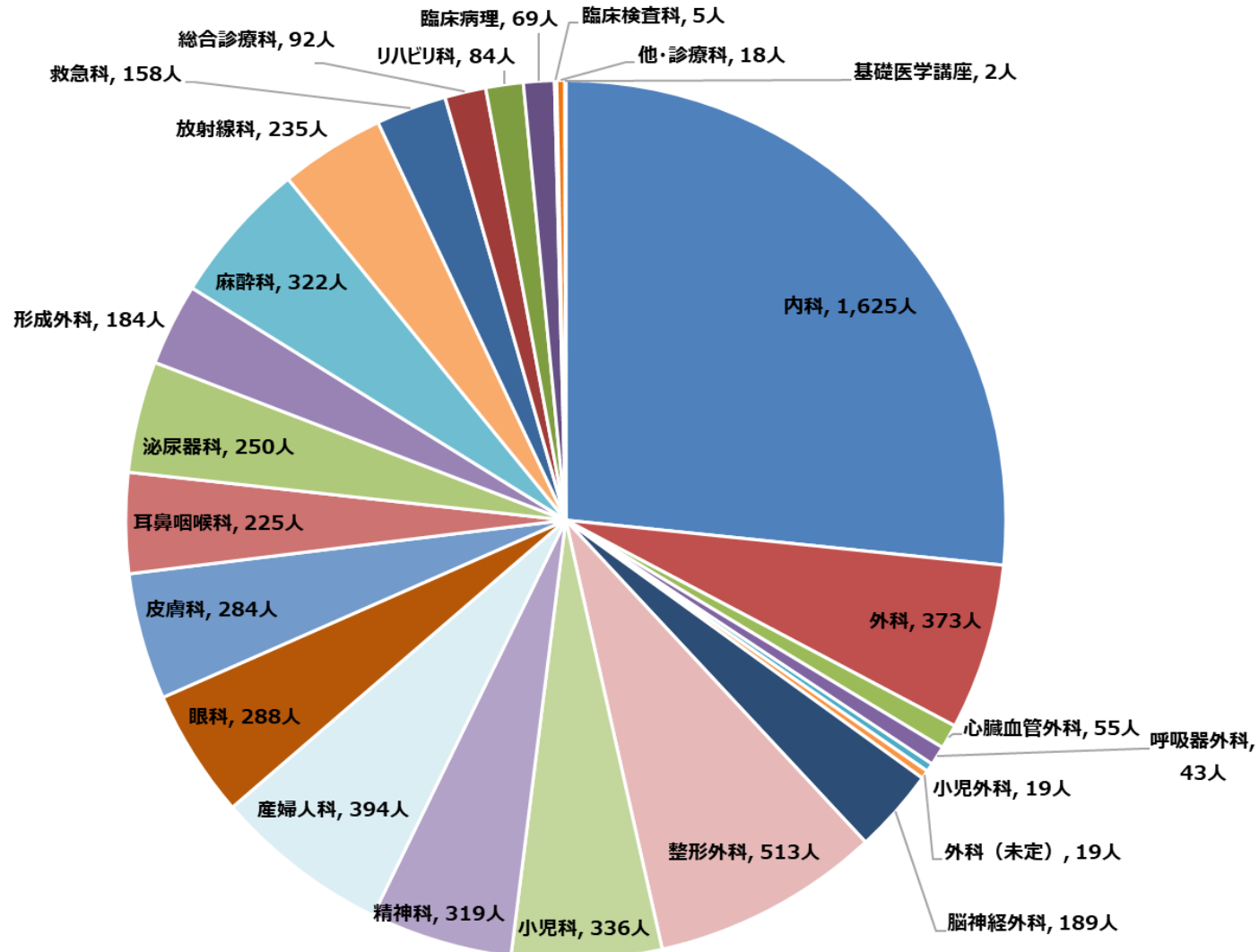
臨床研修医増加のための取組（たすきがけプログラム）

◆自大学で研修する臨床研修医を増やす取組（※文部科学省においてたすきがけプログラム関係記載を抜粋し、下線を追加）

大学名	活動内容	成果
東北大学	研修医個々のニーズにマッチした研修スケジュールが組めるように、自由選択プログラム、小児科・産婦人科プログラム、地域医療重点プログラムを設けており、令和4年度から基礎研究医プログラムを新たに開始している。協力病院・施設での研修（たすきがけ研修）により、大学病院では高度先進医療、市中病院ではCommon Diseaseを多く経験するなど、双方のメリットを生かすことが出来る。また、令和4年度から診療情報処理研修を全国に先駆けてスタートし、選択研修科目として、AI技術を活用した医療情報解析の基礎を学ぶことが出来る。	たすきがけ研修は多くの実績がある。診療情報処理研修は参加研修医から好評を得ており、医学生からの問い合わせも多い。
筑波大学	院外研修を柔軟に組み込めるようにして、大学と院外の両方を経験したい、というアピールをしている	マッチングで58人内定に加え、二次募集で17人内定した。
東京大学	(1) 当院のみで臨床研修を行う方式のプログラム、 (2) 基幹型臨床研修病院と協力型臨床研修病院間で臨床研修を行う「たすきがけ型方式」のプログラム、 (3) 小児科重点プログラム、 (4) 産婦人科重点プログラムと全4プログラムあり、選択枝が多い。優れたスタッフの指導の下、幅広い知識や技能の習得が可能である。	応募者の数は年々増えている。
東京医科歯科大学	たすきがけ研修で一般診療から高度医療まで経験でき、将来の目標に合わせた柔軟なプログラム作成を支援している。	毎年高いマッチング率を維持している。
大阪大学	研修医の希望に沿う自由度の高い選択研修を提供する他、大学病院での研修を補完する離島や地域 ER研修、協力型病院及び連携医療機関の拡大を行っている。	現時点では定員一杯の研修内定者を得ている。
神戸大学	研修医による指導科フィードバックによる研修医ニーズの把握・副直制度の充実	今年度一般・たすき・小児科医育成コースフルマッチ
広島大学	主に大学病院で研修を行う『多目的研修コース』、大学病院と市中病院で研修を行う『たすきがけ研修コース』、小児科・産婦人科研修に重点を置いた『小児科・産婦人科重点研修コース』、基礎医学研究と両立できる『基礎研究医育成・研修コース』を設置し、研修施設、診療科の選択において、研修医の希望に応じて柔軟に対応できるようにしている。また、救急外来研修を充実させ、大学病院では救急外来が研修できないというイメージを払拭するよう努力している。	マッチング希望者の増加を期待できる。
長崎大学	たすきがけ研修プログラム（1年次：長大病院→2年次：他病院）の充実	大半の研修医が選択しており、大学病院で経験できない common disease を2年目以降の市中病院で経験できるなど、幅広い研修が可能となっている。
大分大学	たすきがけ研修等、大学病院と中核病院の良さをミックスしたプログラムを実施	昨年度マッチング率87.5%を達成した
鹿児島大学	協力病院、協力施設とのたすきがけでの研修を行っていることを医学部学生にアピールしている。	市中病院での研修を考えていた学生が一定数マッチするようになった。
東京慈恵会医科大学	地域医療研修2カ月・たすきがけ研修・市中病院研修	一般外来診療能力・総合診療能力・手技等の向上が図れた
福岡大学	市中病院と連携したたすきがけの研修コースを新設し、より充実した研修プログラムを構築した。	プログラムへの応募者数が急増し、マッチング結果についてもフルマッチとなった。

大学病院での臨床研修修了後の進路選択（令和4年度）

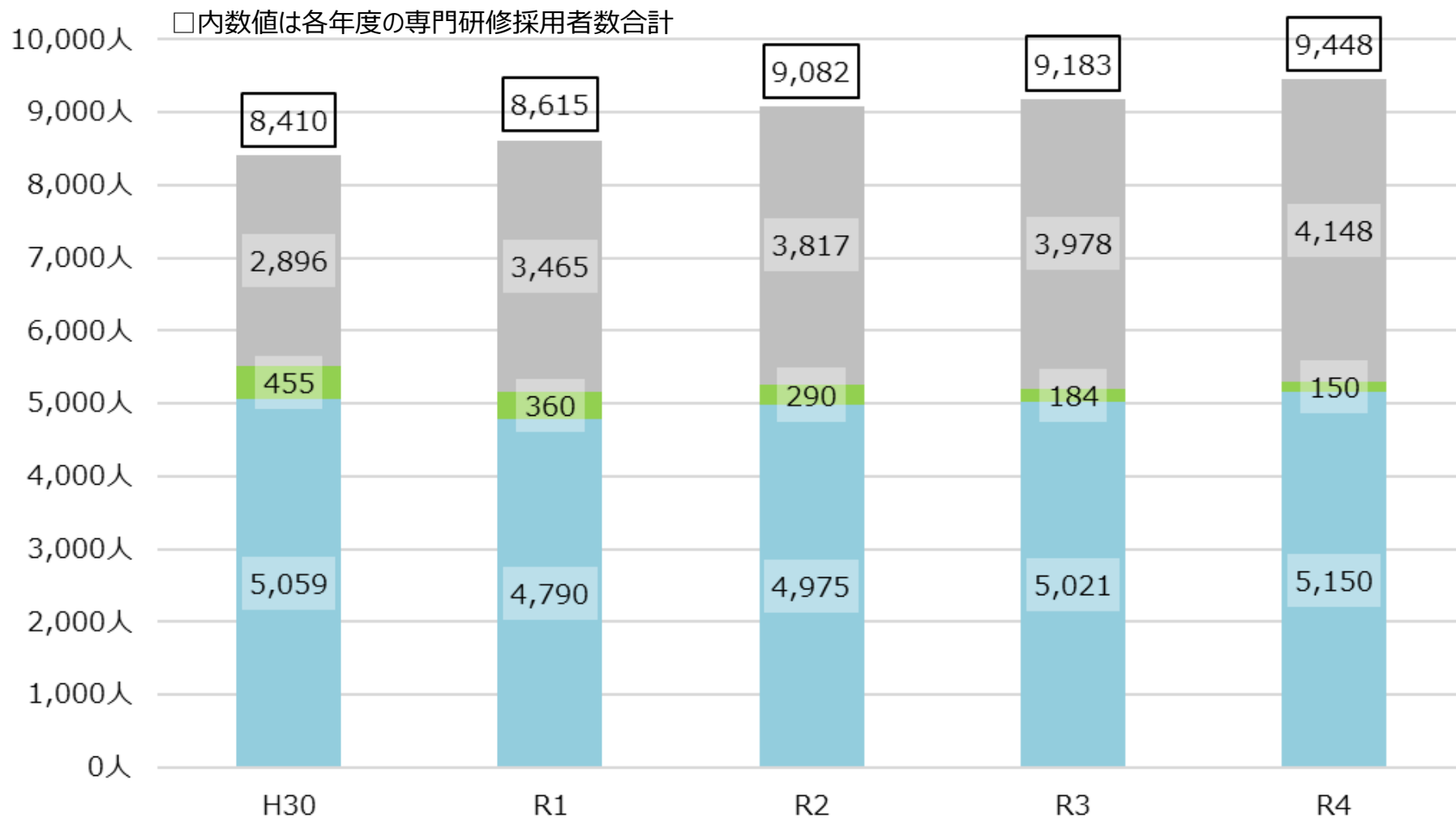
臨床研修修了後の進路は診療科ごとに差はあるものの、様々な診療科等の進路選択がなされている。



※「外科（未定）」は、外科志望であるが、専門分野未確定の者

専門研修採用者数

大学病院の専攻医数は新専門医制度以降横ばい傾向にある。



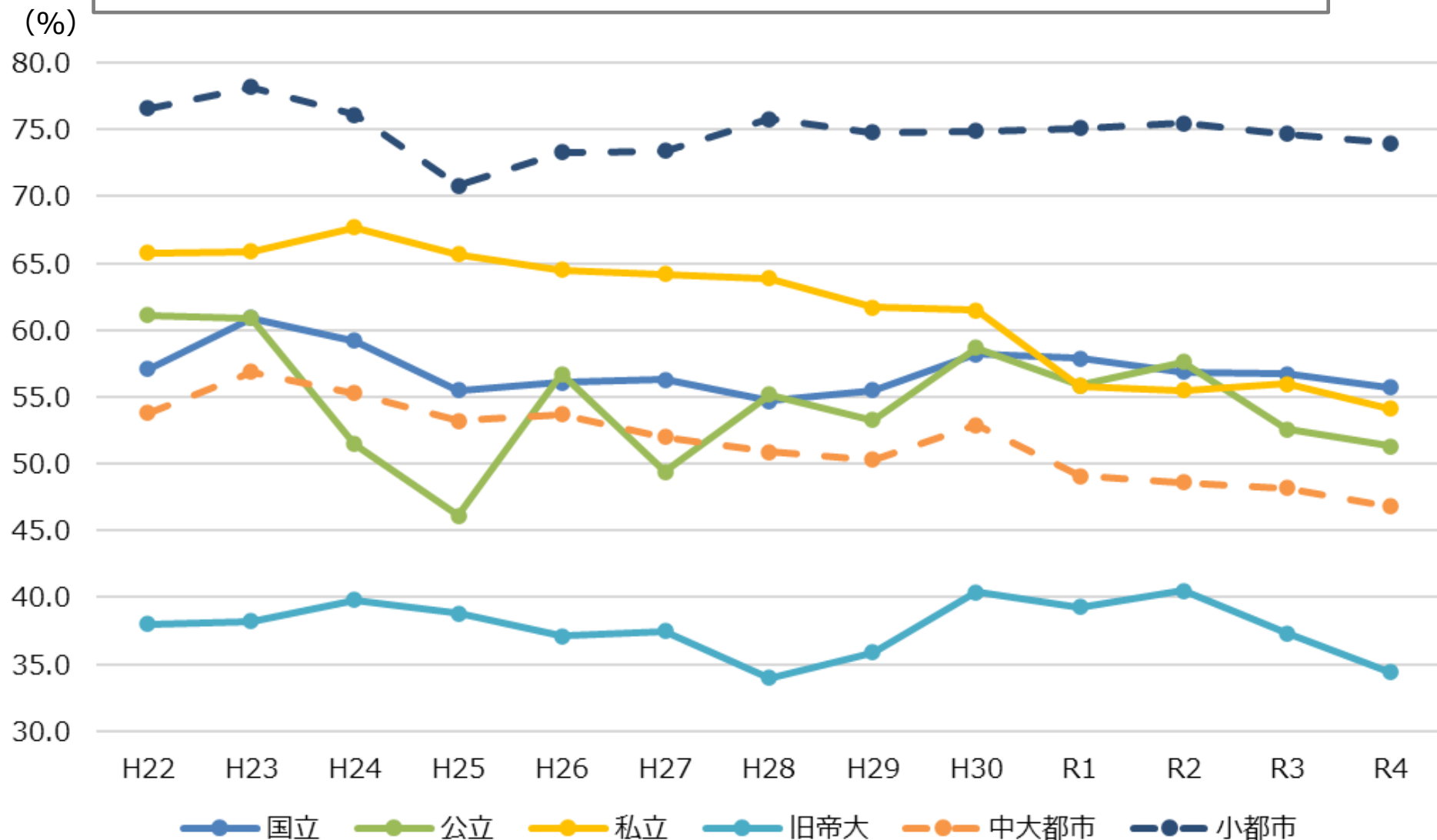
■ 大学病院の専攻医のうち大学院生でないもの ■ 大学病院の専攻医のうち大学院生であるもの ■ 大学病院以外

(出典) 令和2年度 全国大学附属病院 研修医に関する実態調査報告(全国医学部長病院長会議調べ)、全国医学部長病院長会議提供データ及び厚生労働省HP公表資料を基に、文部科学省医学教育課が作成。

大学病院以外の採用者数については、専門研修採用者数から大学病院の採用者数合計を引き、算出。

各大学の専攻医に占める自大学卒業者の割合の平均

中大都市に所在する大学病院の方が小都市に比べ、自大学卒業の専攻医の割合が小さく、旧帝国大学ではその割合が40%弱を推移している。

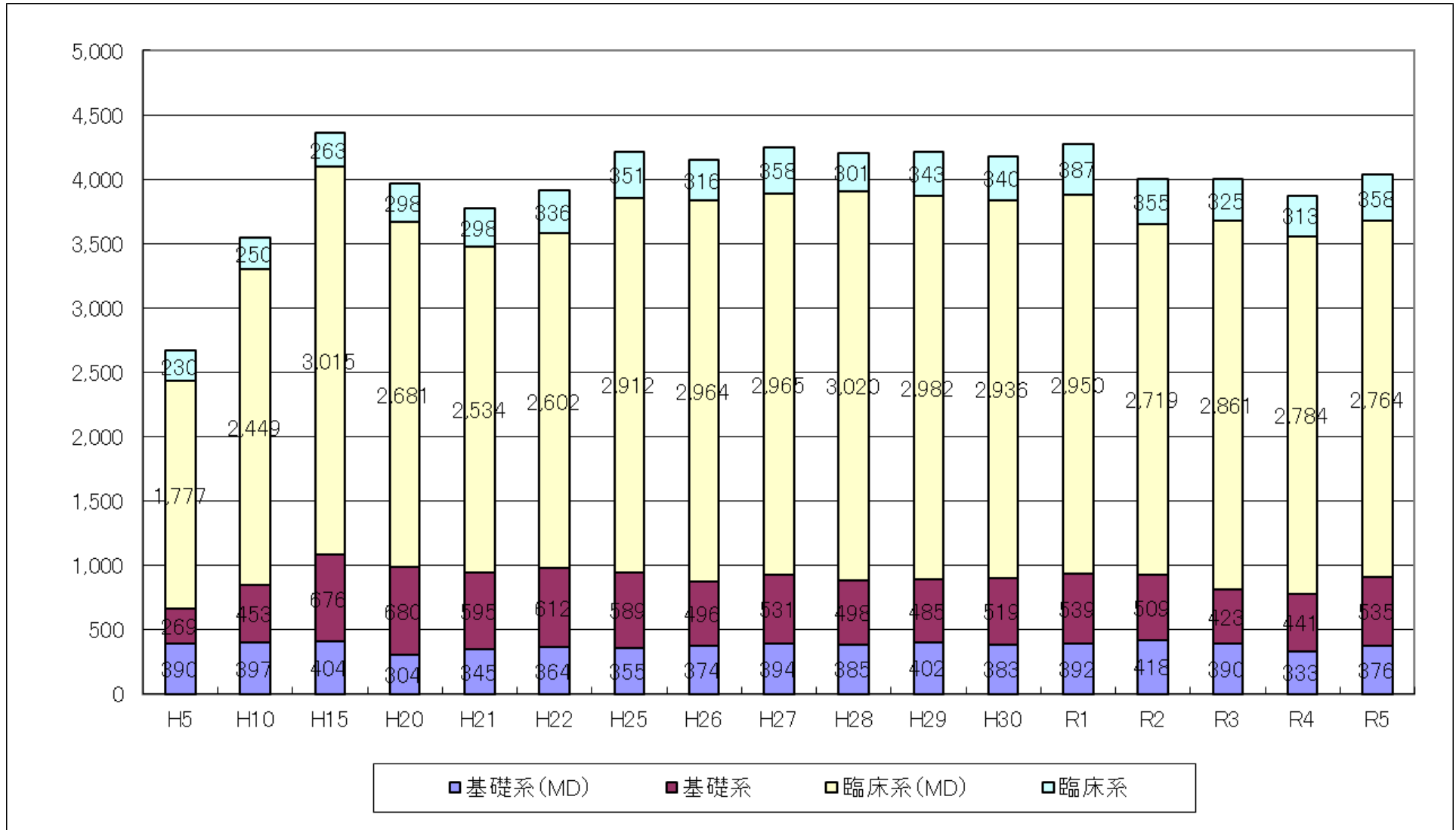


※中大都市：政令指定都市のある都道府県、北海道は札幌市のみ 小都市：中大都市以外

出典：令和3・4年度 全国大学附属病院 研修医に関する実態調査報告（全国医学部長病院長会議調べ）

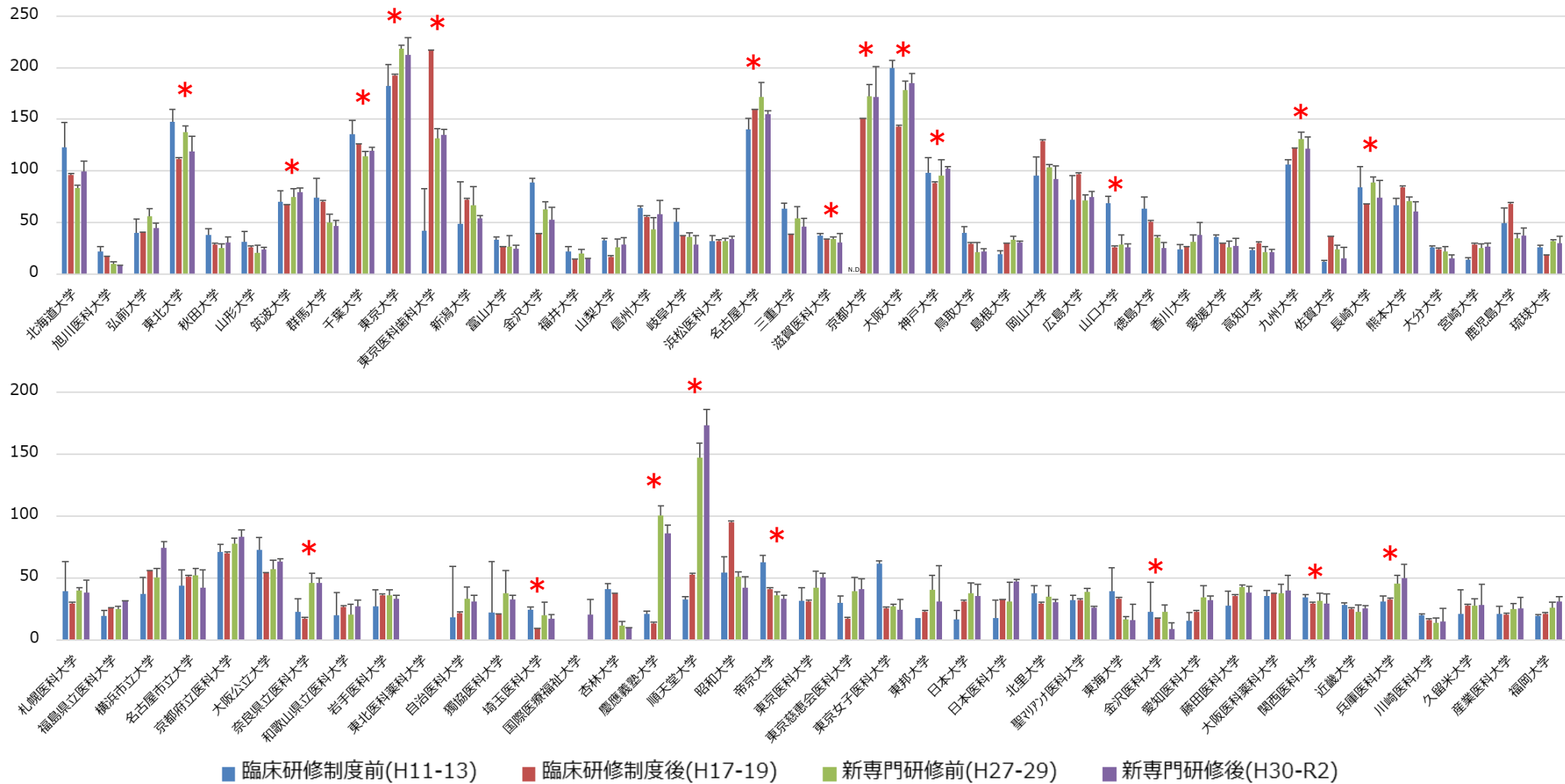
医学系大学院（4年制博士課程）入学者推移（H5～R5年度）

医師（MD）の大学院の入学者数は横ばい～減少傾向



大学院生数の推移(H11~R5)【再掲】

研究医枠設置大学では、研修制度が開始される中、増員以後大学院生数が増加傾向にある。



* 研究医枠設置大学（現在増員のない大学を含む）

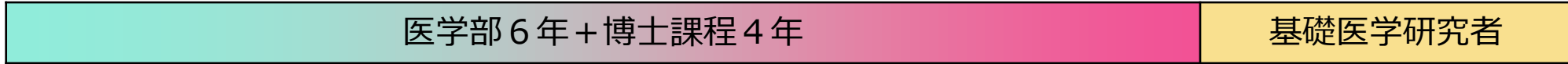
※ 大学院生数は3年間の平均

H11-13は学校基本調査、その他は医学教育課調べ 30

支援の方向性

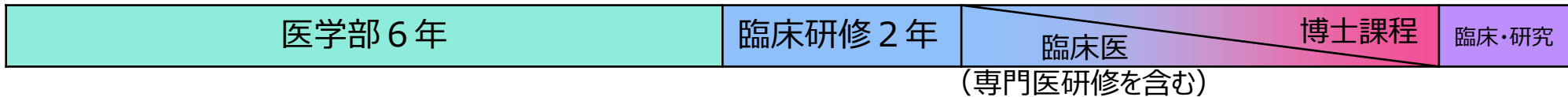
- ①主として基礎研究に従事するキャリア
支援策：生活費・研究費支援、ポスト確保
配慮すべき事項：ポストク問題

↓ 生活費・研究費支援 ↓ ポスト確保、研究費支援



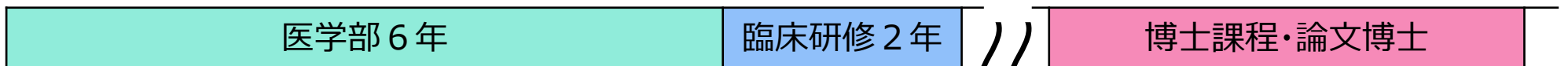
- ②臨床を担いつつ、研究にも従事するキャリア
支援策：博士号の魅力向上、診療のエフォート減
配慮すべき事項：地域の医師確保

↓ 診療エフォート減 ↓ 博士号の魅力向上



- ③主として臨床を担うキャリア
支援策：博士号の魅力向上

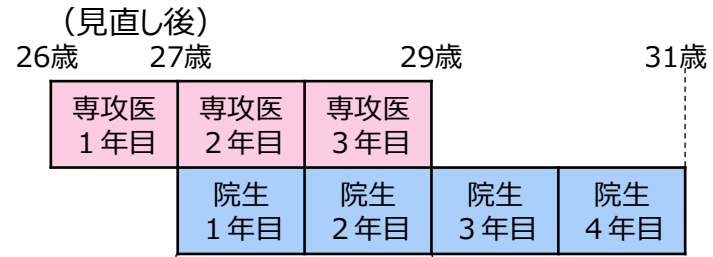
↓ 博士号の魅力向上



大学院進学、博士号取得の魅力向上のための取組の提案

- ・医学論文の減少、研究医のなり手不足など、医学分野の研究力低下は喫緊の課題である。
- ・令和6年4月より医師の休日・時間外労働の上限規制が適用され、研究力の低下が更に懸念される。
- ・医師の研究者としての資質向上のため大学院進学を推進することが望ましいが、卒後の研修制度などが進学の障壁となっている。
- ・専門医研修と大学院進学の間並履修や博士号取得のインセンティブの付与など、博士号の魅力向上を図るための取組が必要である。

① 専門医制度における臨床研究医コースと大学院進学の間並履修 (臨床研究医コース)



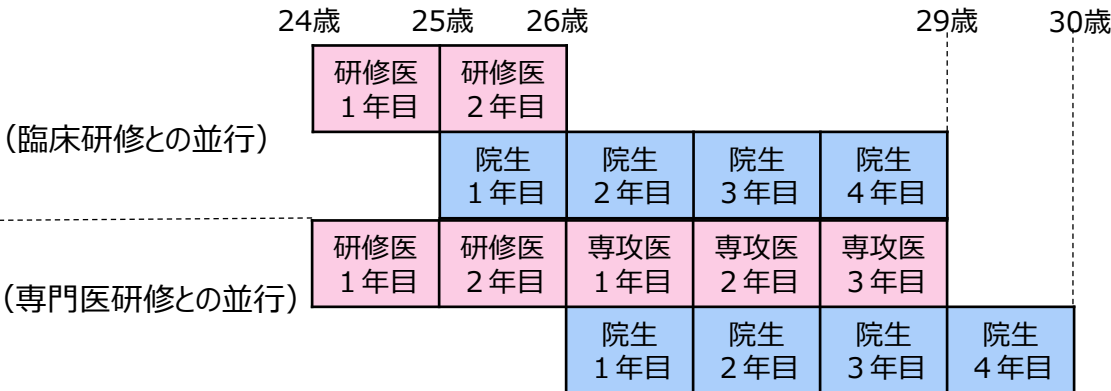
並行して履修

臨床研究医コース整備指針 2023年5月19日一部改正
(一般社団法人日本専門医機構 2020年9月18日)

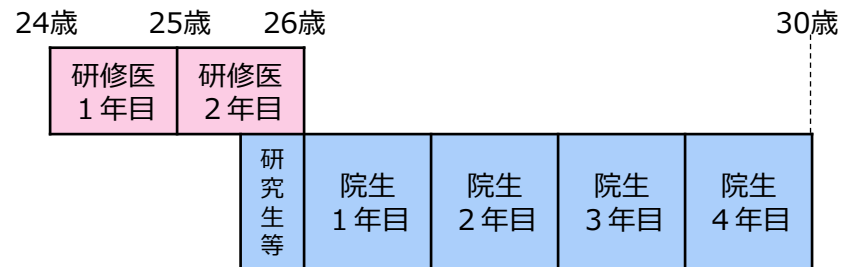
・シーリングの対象とはならないが、大学院進学との並行履修が認められなかったためコースの魅力が不十分

- ・専門医研修と博士課程を両立できないか
- ・並行履修期間中の診療エフォートを軽減できないか

② 研究を継続して実施するための取組の推進



(基礎研究医プログラムで想定されるコースの例)



・臨床研修や専門研修を大学院進学と並行する大学独自の取組や厚生労働省の基礎研究医プログラム等を活用し、研修により医師の研究に対する意識が途絶えないような取組を推進するべきではないか

③ その他、博士号の魅力向上のための取組案

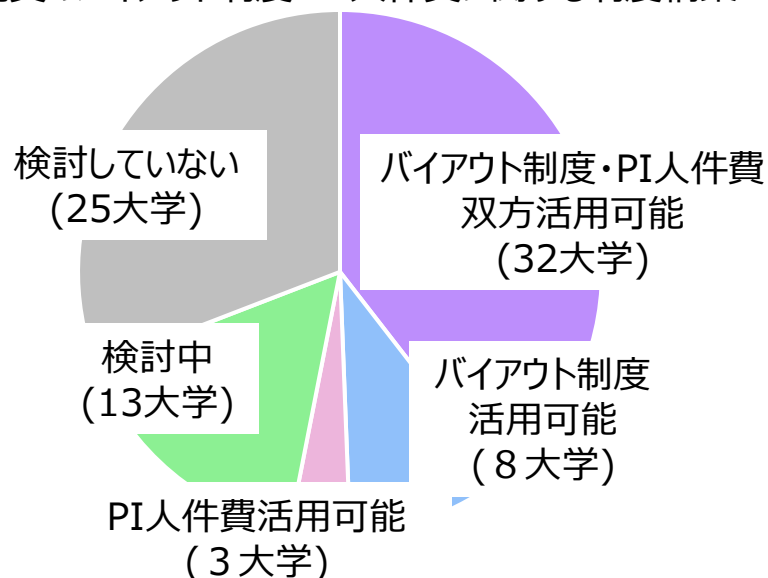
- ・専門医の取得要件において、一定の研究活動を求めることとしてはどうか
- ・博士号取得者については、医学研究者として十分な資質があるものとして、一部講習の免除等のインセンティブを付与してはどうか

その他、研究に専念できるための環境整備に関する状況

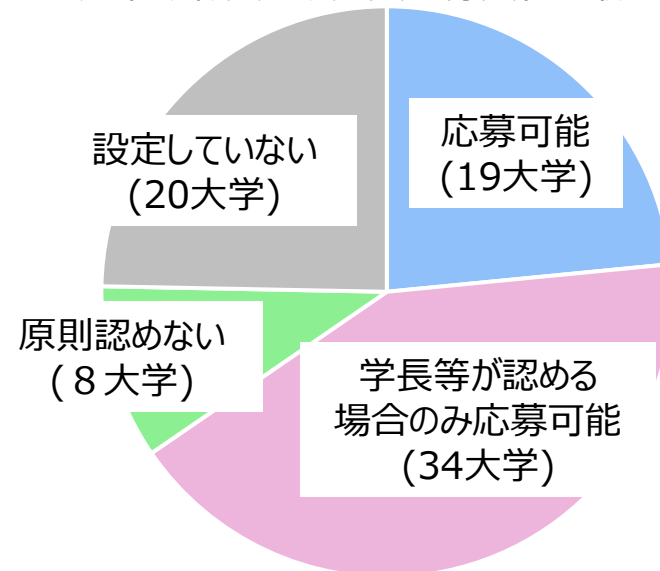
各大学で研究に専念しながら、ライフイベントにも配慮した取組が実施されている。こうした取組を学内でも周知するとともに、好事例については横展開する必要がある。

1. 競争的研究費に関して、研究者が研究に専念できる環境の整備に係る取組状況

研究費のバイアウト制度・PI人件費に関する制度構築



非常勤職員の研究費応募資格の取扱い



2. 各大学で実施されているライフイベントに配慮した取組

- ・出産サポート休暇、育児休業・時短勤務、介護休業 ・院内保育所・病児保育室・育児多目的室の設置 ・夏季学童保育
- ・ベビーシッター料補助 ・育児中の当直免除 ・不妊、妊娠、育児と仕事の両立等の専任アドバイザーの配置
- ・研究支援員の配置 ・復帰後の研究費補助 ・論文執筆に係る費用の補助 ・学会参加時の保育料補助や学会託児
- ・ワークライフバランスやダイバーシティに関する講演会・シンポジウムの開催 ・男女共同参画に関する表彰
- ・共通テスト時の休日保育料補助 ・大学院の長期履修制度 等

競争的研究費の直接経費からのPI人件費の支出・バイアウト制度の活用について

- ※ 1 競争的研究費：大学を含む研究機関において、府省等の公募により競争的に獲得される経費のうち、研究に係るもの。科研費、創発的研究支援事業など。
- ※ 2 直接経費：競争的研究費により行われる研究に直接的に必要なものに対し、研究機関又は研究者が使用する経費。物品費、人件費・謝金、旅費等の区分が存在。

	PI人件費	バイアウト制度
制度概要	競争的研究費の直接経費から研究代表者（PI）の人件費を支出することによって人件費相当分の財源を確保し、研究機関の研究力向上のために活用することを可能とする。	PI本人の希望により所属する研究機関と合意をすることで、PIが担う業務のうち研究以外の業務（※）の代行に係る経費を支出することにより、研究プロジェクトに専念できる時間の拡充を可能にする。 ※ 講義等の教育活動等やそれに付随する事務等に限り、営利目的で実施する業務を除く。大学病院における診療活動も対象となる。
対象者	PIとして研究計画の遂行に関して全ての責任を持つ者（研究分担者については配分機関の判断による）	PI本人（研究分担者については配分機関の判断による）
対象事業（文科省事業）	創発的研究支援事業、革新的先端研究研究開発支援事業、医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業、社会のニーズを踏まえたライフサイエンス、先端バイオ創薬等基盤技術開発事業、ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業、ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム、医療機器等研究成果展開事業、次世代がん医療加速化研究事業、先端国際共同研究推進事業 他 (令和5年4月1日時点)	科学研究費助成事業、創発的研究支援事業、革新的先端研究研究開発支援事業、医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業、社会のニーズを踏まえたライフサイエンス、先端バイオ創薬等基盤技術開発事業、ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業、ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム、医療機器等研究成果展開事業、次世代がん医療加速化研究事業、先端国際共同研究推進事業 他 (令和5年4月1日時点)
支出額	PIの年間給与額に、年間を通じて研究活動に従事するエフォートを乗じた額とすることを原則とし、研究課題の実施に支障がないよう、上記額の範囲内でPIが設定。各配分機関においては、研究費の規模により、一定の割合等を人件費の支出の上限として設定するなど、必要に応じた措置を講ずる。	PIが所属する研究機関において、支出額の算定基準を設定する。 例) $PIの年間給与額 \times バイアウトする業務のエフォート率 = 支出額$ なお、各配分機関において、研究費の規模により、一定の割合等をバイアウト経費の支出上限として設定するなど、必要に応じた措置を講ずる。
利用の条件	以下の3つの条件を満たしたうえで、配分機関に体制整備状況・活用方針を提出する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・PI本人が直接経費にPI人件費を計上することを希望していること ・PIが所属する研究機関において、確保した財源を研究力向上のために適切に執行する体制が整備されていること ・研究の業績評価が処遇に反映されるなどの人事給与マネジメントを実施していること 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究機関において、①代行できる業務の範囲、②年間に代行できる上限、③代行に係る経費やその算定基準等を含む規程を整備する等など、バイアウト制度に関する仕組みを構築すること ・PIと合意の上、研究機関が代行要員を確保する等により代行を実施すること ・経費の適正な執行を行うこと

- 研究医枠については、医学生の研究マインドの涵養に一定の効果があると考えられる。より教育効果の向上を図るために、研究医枠に係る要件の見直し、教育内容の充実に係る方策を講じてはどうか。
 - 必須要件として、卒後のポストを含めたキャリア支援や海外研修の機会の提供等を義務付けてはどうか。
- 研究医枠の本来的な目的に鑑み、基礎医学や社会医学での素養を培った優れた研究医、臨床医を幅広い大学で養成するために、設置大学の見直しを含め、研究医を増員する方策を検討してはどうか。
 - 研究医枠については近年増員がなされていないが、研究医養成の重要性に鑑み、令和6年度設置大学を含めて、各大学の研究医養成のための教育体制、研究医輩出の状況を勘案し、医学部定員全体の方向性を踏まえつつ、研究者養成に特化した枠の設置促進等、その範囲内において研究医を増員する方策を検討してはどうか。
- 医師としての臨床能力の向上、我が国の医学研究力の向上のために、大学・大学病院に医師をはじめとした医療関係職種、異分野の研究者、研究支援人材等を確保するためには どのような方策が考えられるか。
 - 高度で専門的な医療と地域医療の双方を経験できる、大学病院と協力型臨床研修病院の、いわゆるたすきがけ型の研修を推進し、臨床研修の充実を図ってはどうか。
 - 臨床研修や専門研修と両立して大学院進学が可能なプログラムの履修者増の方策を講じてはどうか。
 - 大学院進学、博士号取得に関してインセンティブを付与できないか。